

再刊
日本立志編

一名修身規範
于河埤貫二著述

福岡第一師範學校
(學校圖書)

卷第	第	號
部	倫理學	部
次	日本倫理學叢書	次
冊	第	冊
分冊	第	號
番	150.118	

校學範師岡福

門 作

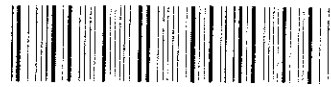
冊 2/4

冊 1

冊 0 冊/內

T1A1
22
C 43

圖書 和圖書 通



a 1 3 8 0 3 2 1 7 3 4 a

福岡教育大学蔵書

志之來達
榮利不來

○東京日報社長福地源一郎先生題辭

種 類	修身部
號 數	一欄
冊 數	

千河岸貫一著

日本立志編

一名修身規範

板權所有

雙書房合梓

馬玉

永原三月念五

福地源



日本立志編序

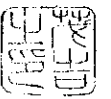
凡ソ書ヲ著スルノ要ハ以テ世ヲ益スルニア
リ以テ物ヲ利スルニアリ以テ人心ヲ改良ス
ルニアリ以テ風俗ヲ矯正スルニアリ詞章巧
妙能ク時好ニ應シ為メニ洛陽ノ紙價ヲ傾ク
ルノ著書アルモ苟モ世ヲ益シ物ヲ利スルノ
効ナク却テ風俗ヲ紊リ世弊ヲ培養スルカ如
キアラハ余ハ秦帝ヲ地下ニ起シテ之ヲ焚カ
ント欲スルナリ近時書ヲ著スル者多クハ古

俗ノ通弊ヲ逐フテ時好ニ投スルヲ專務トナシ唯利ヲ射ルヲ目的トスルヨリ著書ニ生スルノ弊害亦大ナリ豈慨歎ニ勝ユヘケンヤ頃日櫻洲ノ河岸君日本立志編ノ著アリ携へ来リテ序ヲ余ニ屬ス余受ケテ而メ之ヲ讀ムニ我國今古哲人ノ言行以テ世ノ模範トナスベキモノヲ撰録シテ附スルニ論評ヲ以テ人其文巧妙其論正當人ヲシテ志ヲ立テシムルニ足ルモノアリ真ニ世ヲ益シ物ヲ利スルノ良

書ト謂フヘキナリ且夫レ此書ヲ著スル人ハ即チ日々操觚ニ従事スルノ新聞記者ニシテ其餘力能ク此ニ及ヘリ其氣力ノ壯ナル怠惰余ノ如キモノヲシテ亦志ヲ立テシムヘシ此書一タヒ出デハ其世道ヲ補フノ効歎カラザルヲ知ル是レ余ノ辭セズシテ一言ヲ爲ス所以ナリ

明治十三年三月僑居於浪華

藤田茂吉撰



緒言

曩々ニ敬守中村翁カ、自助論即チ西國ノ志編ノ譯アリ、其書一タビ出テ、人爭テ之ヲ購フ、其書ヤ、看者ヨシテ能ク一讀ノ下ニ、剛毅耐忍ノ貴ヲベク、勉強刻苦ノ重ニスベキヲ知ル、感發興起スル所アラシム、維新以來、洋籍ヲ翻譯スル者陸續梓トホリ、汗牛充棟スト雖、凡翁ノ自助論ノ如ク、流播セシ者少ナシ、是他無シ、スマイルス氏ノ著タル、其歸旨ハ、專ラ世道人心ニ影響シ、有爲ノ志氣ヲ振ヒ、自助ノ精神ヲシテ、活潑ナラシメントスルニ在リ、字々句句、己大身ヲ立テ家ヲ興スノ金言格論ニシテ、一モ間諱何語ヲ餘セシ者ニアラザルコト以テナリ、若シ唯文章ノ婉麗ナル措辭ニ拘ルルヲ以テ、空中ニ樓閣ヲ架シ、正中奇テ出シ、有中

無_レ生_レ變幻_ノ快奇_ヲ以_テ一時ノ聲譽ヲ博セ_シトスルモノ
ノ如キハ假令_{人々}相傳ヘテ之ヲ稱歎シ洛陽ノ紙價爲メ
騰貴スル_事及_ブモ天下後世ニ至ル_マデ人々之ヲ傳フ
者非_ズ六一居士ノ所謂_{帝鳥}好音ノ耳ヲ過ケル_ニ殊
一_ヤル_ヲ是則_{古來}文人詩客_太々多シ_ト雖_氏鍾_氏鍾_氏
大家其人_ニ之_ヲカ_スト雖_氏其天下後世ニ稱譽セラル
ル_ニハ單_飄自_然之_議論_{文章}ノ入_ヲ驚_カス_モ無_キ
顔_周ニ及_バザ_ルト遠_キ所以_ナリ然_レト雖_氏言_文ノ_サ
レ_ハ傳_ハラ_ズ亦_人心_ヲ感_發ス_ル足_ラズ_ト彼_自助_論如
キ其_著固_{ヨリ}金_言格_論其_譯詩_亦驚_愕正_雅ト_シ又_漢
嫺_麗ナル_他譯_書間_文意_通暢_ト雖_者テ_ハ類_ト日
テ_同フ_シテ_譯ハ_所ナ_リ是_其書_世傳_播シ_テ久

ク行ハル_{所以}ナ_ルハ_シ
余_客年_來餘_暇アル_毎ニ我_邦古_來ノ事_蹟ヲ諸_書中_{ヨリ}抄
録_シ每_章其_感觸_セル_意想_ヲ附_記シ_テ論_評ニ充_ツ頃_積ム
テ_卷ヲ成_シ題_シテ_日水_立志_編ト_イフ_斯書_固ヨ_リ文_章字
句_ノ讀_者ヲシ_テ感_發セ_シム_ルニ足_ル者_ナク_又世_道人_心
ニ裨_益ス_ベキ_格言_ヲ吐_クノ學_識無_クレ_バ唯_古來_ノ事_蹟
ヲ_記述_セル_ニ又_彼ス_マイル_ス氏_ノ自_助論_トハ_休裁_稍
異_{ナル}ナ_リ
彼_ノ自_助論_ハ人_ニ立_志編_ト稱_スル_ヲ以_テ斯_書亦_彼
_既前_撰擬_セシ_者ナル_ベシ_ト思_フ人_多カ_ラシ_然レ_氏彼_レ
ハ_古人_ノ事_蹟ヲ揭_ゲザ_ルニ_ハ非_レ也_天ハ_自ラ_助ケ_ル人
ヲ_助ケ_ル理_ヲ論_スル_ヲ以_テ通_篇ノ脈_絡ト_ス此_ハ每

篇古來人士ノ事蹟ヲ舉ゲテ、以テ輓近ノ人情世態ニ比對
シテ、評論スルニ止マル。一ハ自助ヲ以テ主論トシ、一ハ忠
厚ヲ以テ本旨トス。西國立志編ハ、多ク學者工ノ事蹟ヲ
引ク。日本立志編ハ、首トシテ孝子節婦忠臣義僕苦ノハ明
主賢臣、若ク勇士ノ事蹟ヲ掲グ。甲ハ人ヲシテ勉強忍耐以
テ身ヲ立テ家ヲ興セシメントスルニ在リ。乙ハ風俗漸ク
奢靡ニ赴キ浮華ニ流ル、ノ弊習ヲ矯ル、一端ニ供スル
ニ在リ。故ニ斯書ヲ立志ト名クル所以ハ、孟子ノ所謂、頑夫
無廉、懦夫有立志ヲ立ツル云々ノ語ニ根據シ、古來忠厚謹
懇、耐忍困苦セシ人ノ風ヲ聞テ、起ツ者アラニテ幾幾スル
ノ意ヲ寓ス。各ハ則チ相似タリト雖モ、主義トスル所異同
アリ。

人アリ或ハ言ハン。人ノ志氣ヲ獎勵スルニハ、既ニ自助論
ノ在ルアリ。何ッ學藝技術未ダ大ニ開ケザリシ。我邦ノ事
蹟ニ就テ、云々スルヲ須斗ンヤト。余以爲ク然ラズ。夫レ我
邦固有ノ、忠厚ナル風尚ヲ振起シ、之ニ申サヌハニ、西人ガ
忍耐強毅ノ氣風ヲ以テセバ、其富强文明、遠ク歐洲諸邦ニ
陵駕スルノ日アルヲ期スベシ。若シ然ラズシテ、泰西剛毅
堅忍ノ習俗ヲ學ブノミニシテ、古來ノ良風美俗タル、忠厚
易直、儉素、謹懇等ノ氣象ハ、漸ク地ヲ掃フニ至ラバ、則チ左
手ニ得テ右手ニ失シ、一歩ハ進ミ一脚ハ退クト、何ゾ殊ナ
ランヤ。是レ余中村翁ノ譯セル者ト、其体裁ト主義ヲ異別
シ。日本固有ノ良風美俗ヲ記述スル所以ナリ。庶幾クハ讀
者ヲシテ、風節ヲ勵マシ、行義ヲ慎マシムルノ一助タラン

了ヲ。故ニ一ニ脩身規範ト名ケ。今書房ノ需メニ應ジテ。聚
棗ニ災スト雖氏。其世ニ流傳スルト否トハ。固ヨリ豫期ス
ベカラザル所ニシテ。彼自助論ト並ビ行ハルノ釣量ナ
キヲ知ル。然リト雖氏。今世ノ文人學士カ。動モスレバ聞語
ナ綴リ。聞書ヲ撰ミ。聞錢之ヲ購フ者ヲ待ツニ比スレバ。捕
獲ナル所無キニ非ルヲ信ス。刻成ルニ及ビ。卒然筆ニ命ジ
テ。本編撰述ノ旨趣ヲ略記シ。以テ緒言ト爲スト云爾。

編者識

日本立志編卷一目次

節儉ノ部

節儉ヲ尚フハ修齊治國ノ要務タル事ヲ叙ス

- 第一 後三條帝ノ 聖斷 一
- 第二 源賴義日置九郎ヲ叱責セシ事 二
- 第三 源賴朝筑後守俊兼ヲ戒メシ事 三
- 第四 松下禪尼手ヅカラ亮隔ヲ糊補セシ事 四
- 第五 比條時賴儉素ノ事 五
- 第六 楠正成比條氏ノ亡ブルヲ知ル事 六
- 第七 黒田如水銀百枚ヲ取ラザリシ事 七
- 第八 家康公恭儉ナリシ事 八
- 第九 井伊直孝衣ヲ乞フタル事 九

第十 紀州侯頼宣ノ生母撫養ヲ捐テ、七八養ノ事 十四丁

第十一 水戸黄門光國ノ金言 十五丁

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事 十七丁

第十三 備前侯光政軍鞋奴ヲ逐ヒシ事 十八丁

第十四 酒井侯忠清補綴セル相服ヲ服セシ事 十九丁

第十五 土井利勝零繰ヲ棄ガリシ事 二十丁

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事 廿一丁

第十七 家忠公ノ乳媪水多正信ヲ面斥セシ事 廿二丁

第十八 青木氏部少輔絹ノ衾袴ヲ謝セシ事 廿三丁

第十九 大河内金兵衛松平信綱ヲ諷フ事 廿四丁

第二十 酒井忠真綿衣ヲ以テ納徴トセシ事 廿五丁

第二十一 酒和田喜六獨斷ヲ以テ金ヲ貸シタル事 廿六丁

第二十二 駿部道弘其子ノ奢後ニ習フヲ懼レシ事 廿八丁

第二十三 奥買五平次飢民ヲ賑恤セシ事 三十丁

第二十四 大黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事 卅一丁

第二十五 釋月仙貧鄙ノ請リヲ避ケガリシ事 卅二丁

第二十六 春夫八藏カ達ナル事 卅三丁

第二十七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事 卅九丁

第二十八 新見屋新右備前少女ヲ救ヒ禍ヲ免ガレシ事 卅十三丁

第二十九 山中某賑恤ヲ以テ老境ヲ慰メタル事 卅七丁

第三十 菊池孝兵衛檢朴ニシテ窮乏ヲ憫ミシ事 卅八丁

第三十一 川北梅山儉素自ラ守ル事 卅八丁

第卅二 木村成壽居ヲ移ス事

五十一

日本志編 卷之十一

十河岸 買一 撰述

節儉ヲ尚ブハ修齊治國ノ要務タル事ヲ叙ス
 衣食足テ禮節ヲ知ルハ古人ノ格言ニシテ衣食足レバ
 仰ヒテ父母ニ事ヘ俯シテ妻子ヲ養フス。其資給
 難キニ困シム。何ノ餘カアリテカ其他ヲ顧ミルヲ得シヤ
 故ニ志操ヲ挫折シ。廉耻ヲ破リ。信義ヲ朋友ニ失スルニ至
 ルハ。ミナ平生檢束ヒマシテ。冗費濫用スル所多キニ由ル
 身ヲ修メ家ヲ齊フルニハ。先ツ衣食ノ計ニ窮迫セザルノ
 用意ヲ為サザル可カラズ。故ニ顔回ノ貧猶ホ簞食瓢飲以
 テ飢渴ヲ療ズルニ足リ。曾參ノ其父ヲ養フ。必ス酒肉一リ
 ト云フ者。何ゾ今世ノ人士中。勤モスレバ負債堆積シ。督責

四方ニ至ルモ、猶ホ美酒鮮肴ニ醉飽スルガ如キモノナラ
ンヤ。必ズ家道、以テ此ノ如クスルニ足ルアルニ由テナ
リシハ、推知スベシ。孟子ガ、富歲ハ子弟、賴多ク、凶歲ハ子弟、
暴多シトイヒ、邦諺ニモ、貧ハ盜、トイフガ如ク、人ハ其生
活ノ景狀ニ由テ、善良トモノリ、暴惡トモナル者ナリ。而シ
テ其衣食、足リ、仰事俯畜、資ニ闕乏ヲ訴フル丁無キヲ
欲セバ、各自、生業ニ勉カスベキハ、勿論ナリト雖、氏、平生
ニ節儉ヲ守ラズンバ、刻苦焦勞シテ得ヌル所モ、奢侈、爲
メニ消費シテ、蹉形ヲ留メザル、トナラス。遂ニ負債山ヲ
爲スニ至ラン。其國ニ於ケルモ亦然リ。故ニ富強ト並ニ構
シテ、國富メバ兵、亦強ク、兵ノ羸弱ナル國ハ必ズ、財政ノ
困難ヲ訴、ハ、善ク、然、則テ家ノ敗壞シ、國ノ存ハス

ル所以ハ、唯、儉素ヲ尚フト否ラサルト、在ル、ミ、斯ク云
フト雖、氏、節儉止者ハ、吝嗇ト混シ、易キモノニテ、世ト往々、
吝嗇ニ過ギテ子孫ヲ廢抑シ、身死シテ幾クモ無ク、蕩子、
爲ニ耗散セラシ、所謂長者三代トイヘル類、多ホカラスト
セズ、是正理ニ違ハル所爲ヲ以テ、積聚シテ散ヌル丁ヲ知
ラズ、自ラ怨ミノ府トナル丁ヲ皆セザルニ由レリ、節儉ノ
美德ト思ヒ、知ラス、謙ラズ、吝嗇ノ禍根ヲ培養スルアラバ、
其素望ト反對スル結果ヲ收ムルニ至ルバシ、察セスンバ
アル可カラス。語ニ曰ク、若有周公之才之美、使驕且吝、其餘
不足言也。已ト、聖人既ニ然リ、況ヤ其他ヲヤ。

第一 後三條帝、聖斷

後三條院天皇ハ、剛健嚴明、稱シテ英主ト爲ス、即位ノ初ニ

當リ。風俗華侈。ニハ。下吏ノ車ト雖。任之ヲ飾ル。金ヲ以テ。ス。帝其弊ヲ矯メント欲シ。嘗テ石清水ニ幸ス。都人士女出デ。鹵簿ヲ觀ル。車金飾ヲレバ。則チ帝爲一輩ヲ駐メ命シテ。盡ク剔去セシム。後チ加茂ニ幸ス。復タ金飾車ヲ見ス。御扇。檜。栴。紙ヲ用井。青魚頭ヲ炙リ。胡椒ヲ塗リ。以テ御膳ニ充ツ。其儉素此ノ如シ。故ニ俗浮樸ニ返リ。皇綱再ビ張リ。群下肅然タリ。

櫻所子曰ク。古來創業ノ英主。守成ノ名臣。恭儉ノ徳ヲ修リ。人。以テ治世安民ノ業ヲ全フセサルハ。無シ。是則チ欲ニ縱ニシ。情ヲ肆ニシ。奢侈華麗ヲ競フハ。良歎ノ本。一。節儉質素ハ。興隆ノ基ナルヲ以テナリ。故ニ唐ノ太宗ハ。儉約朴素ヲ爲メ。女。命。ヲ。詔。リ。シ。玳。瑁。ノ。飾。儉。儉。刑。

ト謂フ。要スルニ名主賢臣ノ見ル所。中外同軌千古一轍ナルヲ知ルニ足レリ。恭ク惟シルニ。我邦開闢以來。萬世一系ノ皇統ヲ奉戴シ。敢テ非望ヲ企ル者ナク。所以ハ。天威ノ赫々タル他邦ニ比類ナキヲ以テニアラヌ。而シテ其天威ノ赫々タルハ。則チ皇恩ノ四海ニ浹洽スルモ亦萬邦無比ナルヲ以テナリ。而シテ其威雷建ノ如ク。其恩雨露ノ如ク。政令教化雲行キ雨施シ。君民ノ誼永ク易ハラサル所以ハ。列聖恭儉ヲ事トシ。タマフニ由ル之ニ因テ。國史記スル所。歷朝ノ聖蹟ハ。每篇漢文ノ絶ヲ讀ムカ。如クナリトハ。既ニ山陽賴翁ノ謂フ所ノ如シ。今謹ムテ延久ノ朝ニ於テ。一。聖蹟ノミヲ記スルハ。國史既ニ詳クニ歷朝ノ聖蹟ヲ載セ。世人普ネク感仰スル所ナリ。以テナリ。

我が獻聖至仁ナル 今上天皇ハ。風トニ復古ノ鴻基ヲ建
 テルセタマフ。其俊徳偉烈名クベキ無シ。而シテ太平遊惰
 善弊ヲ蕩滌シ。尊大驕奢ノ風俗ヲ矯革シ。夫ノ鐵道ヲ新
 築シ。電線ヲ架設シ。若クハ兵艦ヲ製造スルガ若キ。官民ノ
 便ヲ得。國家ヲ保護スル爲メ。官帑ヲ傾テラル。モ東
 京宮城ノ災スルヨリ。既ニ數年ヲ經ルモ。猶ホ之ガ經營ヲ
 猶豫シタマヘ。更ニ勤儉ノ 詔ヲ下タシ。供御ヲ減セタル
 事ニ至ルモ。延喜天曆ノ 聖代ト雖凡。亦此ノ如クナル
 ニ過ギガハバシ。誰カ感戴シタラシラザル者アラニヤ。
 然レバ。則チ我が帝國ノ人民タルモ。宜ク此勤儉ノ 聖
 旨ヲ奉體シ。實業ヲ本トシ。産業ニ勉カシ。皇化ノ萬一ヲ
 稱補シ奉ラザルベカラズ。然レバ。都鄙一般ニ漸ク奢靡ニ

趨クノ弊ニ染着シ。勅モスレバ。黷衣鮮食ノ弊。後ヲ取ラン
 トスルノ謀ナルガ爲メ。已レク分テ遺レ。速ニ産ヲ敬リ
 家ヲ養フ。且。志操ヲ挫キ。廉恥ヲ勵ルノ道ナキニ至ル。吁。何
 ノ 聖主親カラ報歟。ニ率先シテ。勤儉ヲ事トヒラル。ノ
 獻旨ニ感激スル。選鈍ナルヤ。是レ我が古来ノ事。臨
 徴。節儉ヲ尚フ。ハ。修齊治國ノ要務タル所以。然レテ
 ルヲ以テ。斯書ノ首篇ニ措ク所以ナリ。希クハ鄙俚ノ支辭
 ト雖凡。亦風化ノ萬一ヲ稱補スル所アラムトテ。
 第二 源賴義日置九郎ヲ叱責セシ事
 源賴義與州ノ役ニ赴キ。時。其軍ニ從ハル兵。中ニ近江
 ノ人日置九郎トイヘル者アリ。甲冑其他軍裝太々華美ナ
 リシカハ。賴義之ヲ視テ色ヲ變シテ曰ク。惜ハヘキ。狀貌カ

た。汝が必死の身ヲ亡ハスベシ。速カニ賣却セヨ。ハシモ官軍
の陣營ニ共テスルヲ勿レ。敵營ニ賣與スベシト。九郎唯々
トシテ退ク。他日亦美麗ナル軍装ヲ爲シテ陣頭ニ立ツ。其
美麗前ニ減セス。賴義怒テ曰ク。汝が猶ホ身ヲ亡ボス。カ
曉トラザルヤ。速カニ人ニ賣與セヨ。着スベカラスト。而シテ
他日黒縮甲ヲ着セリ。甲冑物ニ屬ス。賴義之ヲ視テ喜ベル
色アリ。曰ク。喜慶喜慶。軍装ヲ美麗ニスルタメニ財ヲ費セ
ル。家爲メニ貧シク。勇士ヲ養フベキ資力無ク。敵ニ逢フテ
亡ビ易キモナリト。
櫻所子曰ク。賴義義家多年遠征シ。遂ニ奥羽ヲ平定スルヨ
リ以來。東國ノ民源氏ヲ仰グ。父母ノ如シ。而シテ其裔孫賴
朝。汝が身ヲ以テ奮然手ニ懸シテ起シ。東國ノ武士響應

シ。遂ニ諸平ヲ滅クシ。勲業ヲ創ムルニキリシモ、其神宗
ノ恩威東國人民ニ及ベルノ素アルヲ以テニ非ズヤ。而シテ
其此ノ如キヲ致ス所以ノ本ヲ原ヌルニ。節儉ヲ事トシテ、
衣服飲食ヲ菲フシ。勇力ノ士ヲ養フタメニハ、財ヲ愛マシ
リシニ由ルヤ必セリ。何トナレバ、其日置九郎ニ告クルノ
一語ヲ以テスルモ、河ゾ自家ノ節儉ヲ責ハザルノ理アラ
ムヤ。又何ゾ其子義家ヲ訓誨スルニ。節儉ヲ主トシ、勇士ヲ
養フノ事ヲ以テセザランヤ。

第三 源賴朝筑後守俊兼ヲ戒シメシ事

源右府賴朝。或時筑後守俊兼ガ美麗ナル衣服ヲ服シテ。政
廳ニ出タルヲ視。怒ル。甚シ。即チ起テ俊兼ノ副刀ヲ執リ。
其裾ヲ刺シテ曰ク。汝が常胤(千葉介真平(主肥)二郎)ヲ視ヨ

彼等ハ武技ニ長ジタルハシニテ、文學ニ短ナリト雖、節
儉ヲ守ルガユエニ家富ミ多ク、家謀ヲ養フ、汝子、俸祿、彼
等ニ比、儻スルヲ得ズ、而シテ華美ヲ好ミ、節儉ヲ知ラサル
財ヲ存テ使用スル方法ニ暗キニ由ル、汝子ハ文才アリ
ト雖、氏未ダ是非得失ヲ辨ゼザルヤト、大ニ叱責セラレ
ケリ、爾時滿庵ノ諸士之ヲ聞キ、各恐悚シテ措クトコロヲ
知ラサリシ。

櫻所子曰ク、汝子ハ文才アリト雖、未ダ是非得失ヲ辨セ
ザルヤト、右府ノ一言、以テ其眼光炬ノ如クナルヲ見ルニ
足レリ、若シ源右府ヲシテ、今日經濟家ヲ以テ自ラ居リ、朝
々ニ財本勞力ヲ談ジ、タビニ生殖分配ヲ説キ、而シテ自身ハ
量入制出ノ家政ヲ整理スルヲ知ラス、偶得ル所アリバ、之

ヲ聲色ノタメニ消耗シ、通テ督スル者門ニ滿ルガ如キヲ
視セシメバ、將々之ヲ何トカ謂ハハ。

第四 松下禪尼手ツカラ亮隔ヲ糊補セシ事

松下禪尼ハ安達氏、秋田城介景盛ノ女ニシテ、北條時頼ノ
母ナリ、嘗テ時頼ノ爲ノニ食ヲ設ク、禪尼ノ兄城介義景來
テ經營ス、尼方ニ手ツカラ紙ヲ裁シテ、亮隔ヲ糊補ス、義景
曰ク、請フ人ニ命ジテ之ヲ爲セト、尼顧ミス、義景曰ク、之ヲ
補フハ、之ヲ新タニスルノ勞ヲ省クニ若カスト、尼歎シテ
曰ク、我レ豈ニ之ヲ知ラザランヤ、凡ソ物小損アル早ク之
ヲ補ヘバ、則チ大壞ニ至ラズシテ止ム、今此小損改メテ之
ヲ新タニスルハ、奢侈ヲ以テ少年ニ示スナリト、義景赧然
タリ。

櫻所子曰ク、賢達ノ人或ハ母教ノ然ラシムルアル、古來其例ニ乏シカラズ、即チ孟母ノ事ハ言フヲ待タズ、晉ノ陶侃宋ノ程伊川、ミナ其人ナリ、時頼ノ儉素ヲ守リ、海内肅トシテ治マリ、政務能ク整フ所以ノモノ、亦禪尼訓誨ノ然ラシムル所ナリ、

第五 北條時頼儉素ノ事

時頼自ラ奉スル儉素、食味ヲ貳ズ、一夕燕居ス、族父大佛宣時ノ來ルニ會ス、時頼ニ深夜時頼一鉢ハ酒ヲ手ニシテ曰ク、獨酌卿ト共ニスルハ樂キニ若カズ、願フニ安バ下物ヲ得ル所ゾ、紙燭ヲ照ラシ、彼ニ索ム、碟ニ殘醬アルヲ觀取テ酒ヲ佐ク、其澹薄此ノ如シ、

櫻所子曰ク、北條時頼官ハ左近衛將監ニ過ギス、位從五位

上ニ過ギスト雖也、六十餘州兵馬ノ權ヲ握ル身ヲ以テ其儉素此ノ如シ、殆ンド今ノ人士ヲシテ失笑ヒシム、彼セシム、是則チ其王室ト親族朋友トニ對スルノ措置ニ於テハ固ヨリ論ズベキ所多シト雖也、其民政ニ於テハ頗ル觀ルベキ者アル所以ニシテ、公平ヲ旨トシ、節儉ヲ事トシ、殺マトシテ及バザルガ如クスル、北條氏ニ若クハ無シ、宜ナル哉、陪臣國命ヲ執ル、九世ノ久シキニ及ベル丁、且ツ夫レ時宗ガ鎌倉ノ執權タルニ當リ、文永弘安ノ役アルモ、之ガ爲メニ幣廩ノ空乏ヲ訴ヘシヲ聞カズ、時頼若クハ時宗ヲシテ、尊大驕奢、徳川氏ノ季世ノ如クナラシメバ、其凶滅何ゾ高時アルヲ待タンヤ、

第七 楠正成北條氏ノ亡アルヲ知ル事

北條入道高時ハ宴會アル毎ニ酒九献アレバ下物九種アルヲ要ス楠正成之ヲ聞キ人ニ語テ曰ク北條氏マレニ久シカラズシテ亡ブ可シト。

櫻所子曰ク酒九献下物九種今ヨリシテ之ヲ視レバ尋常平民ト雖氏亦驕奢トスル所ニアラス況ヤ高時ハ天下ノ執權ニ非ズヤ何ゾ太ダ驕侈ナリトセンヤ然リト雖氏松下禪尼自ラ亮隔ヲ撰補シ第五條ヲ視ヨ最明寺時頼一献ノ酒ヲ酌ムニ殘醬ヲ以テ下物トシ第六條ヲ視ヨ或ハ青砥藤綱ガ十錢ヲ勝ハシメタル等ヨリ視レハ九献九種亦太ダ奢侈ナルヲ以テ楠公ノ炯眼早ク其亡滅センコトヲ看破セラレシモナラン昔時質素ノ風亦想ノベキナリ今日白面ノ書生乳臭ノ少年行實ヲ食スル者ト雖氏

亦聞婦門酒肆ニ過ギリ數名ノ校書ヲ聘洋釀十千ノ酒

ヲ傾ケ藤竹喧囂歌舞樓ヲ搥カスノ盛宴ヲ開ク謂フベシ布衣ノ士ニシテ其驕奢ハ北條入道高時ヲ暨倒スト其志操ヲ挫折シ學業ヲ放棄ス遂ニ父母ノ憂ヲ貽スベキハ楠公其人ノ智ヲ待タズシテ看破スルヲ得ベシ夫レ各自ノ材能ヲ以テ各自ノ嗜好ヲ遂ゲ各自ノ快樂ヲ取ルハ固ヨリ各人ノ自由ニシテ他ノ干渉シ得ベキニ非ズト雖氏亦各自其分ヲ知ラズンバアル可カラズ。

察ハ 黒田如水銀百枚ヲ取ラサリシ事

豊公征韓ノ事アルニ際シ日根野備中守ヲシテ韓廷ニ使セシム備中守甚タ貧困ニシテ其旅裝ヲ辦スルノ資無シ偶三好新右衛門ヲ紹介トシテ銀百枚ヲ黒田如水ニ借レ

リ。歸朝、後、新右衛門ヲ伴ヒ。如水ヲ訪フ。其借リタル所、銀ヲ償還シ。更ニ銀十枚ヲ添ヘタリ。以テ判子トスル心ナリ。如水出テ、面晤シ。替クアツテ近臣ヲ呼ビ曰ク。曩キハ、人ノ贈ケル鱒アリ。厨人ヲシテ其肉ヲ腊ス。人畜ハシ、ハ、且、今ハ其骨ヲ羹トシテ酒ヲ酌ム。吾トシテ二人之ヲ聞キ、心ニ不滿ヲ抱ケリ。而シテ酒既ニ畢リ。如水サキ、銀ヲ出シテ曰ク。我、素ヨリ貸スニ意ナシ。唯卿カ給セザル所ヲ補助セシノミト。再三之ヲ強エ、氏、遂ニ取ラズ。二人感謝ニ堪エズシテ歸レリ。

附記

關ヶ原ノ役アル前、大坂守部ノ士ヨリ其變ヲ如水ニ報ズ。如水曰ク。平素貯フル所ノ金銀ハ此ハ如クナル時ハ用ニ充テンガ爲ナリ。來テ我ニ屬セシトスル者ヲハ

幾多ハト云ヒ。養フベシ。封内ニ隱ルハ士アラバ財ヲ以テ出テ、兵器ヲ執ラシメヨトテ。巨多ノ金銀ヲ散ジテ四方ノ士ヲ招募セリ。

櫻所子曰ク。宜矣哉。黒田如水ノ智勇絶倫ヲ以テ。當時ニ稱セラレシ。其鱒ヲ割キ。其肉ヲ腊トシテ之ヲ畜ヘ。其骨ヲ羹トシテ客ヲ饗スルヲ以テ視レバ。平素節儉ヲ旨トシ。質素ヲ專ラトセシ。想ヒ見ル可シ。然ルニ朋友ニ接スルニ義アリ。變ニ處スルニ斷アリ。其金銀ヲ視ル。泥土帝ナラズ。真ニ武人ノ氣魄トイフ可シ。抑モ節儉ノ事タルレカ。欲ヲ制ス。死費濫用ヲ省キ。其爲スベキ事ニ臨ムデハ。毫髮モ吝ム。無キニ在リ。然ルニ今世人士ノ爲ス所ヲ視ルニ。其朋友ニ接スル。離令慶賀等種々ノ事アルニ際セバ。旗亭

畫閣ニ會同シ。華筵銀燭。以テ山海ノ美味ヲ排列シ。綠酒紅
 裙。歌時樓ヲ撼カスノ一大盛宴ヲ開クヲ以テ例トス。一嘗
 費マ所無慮數十金。人ユ語テ曰ク。我敢テ奢侈ニ耽ルニ非
 マ。交際上巳ムヲ得サルナリト。其交リ迄キモノハ。此ノ如
 キ宴會ニ招カル。丁。殆ンド産日無シ。何ゾ宴會ノ太ダ盛
 ナルヤ。而シテ此輩亦其仰事俯畜ノ爲メニ要スル所。或ハ
 闕乏ヲ訴フルナキニ非ズ。亦何ゾ親戚朋友ヲ助クルノ餘
 カアラシヤ。故ニ其貸ス所百金ニ盈タザルモノヲモ借テ
 還サザルヲ憤リ。昨ノ親友今ノ仇讎トナルアリ。或ハ骨肉
 ノ間ニ放テ。狀師ヲ僱フテ。法司ノ裁斷ヲ請フアリ。滔々ト
 シテ天下ニナ然ラザル無シ。是他ナシ假令親朋ノ災厄ニ
 遭遇スルコトアリトモ。平素交際ノ爲メニ費ス所過多ナル

ヲ以テ之ノ補助スルニ由リキナリ。特リ之ヲ補助スルニ
 由ナリノミナラス。淳薄ノ世情。人若シ一蹶セバ。之ヲ陪附
 ニ濟倒シ而シテ心ヲトタリントス。抑ヒ此ノ如キヲ致ス
 所以ノ者ハ。風俗漸ク奢侈ニ染レ平素ノ交際ニ消費スル
 所多ク。隨テ交際ノ外ニモ。亦冗費濫用多キ一至ルヲ以テ
 ナリ。夫レ外ニ伸ブル所アラントスレバ。内ニ結ムル所ナ
 カル可カラズ。彼レニ發ナル所アラントスレバ。此ニ急テ
 ル所ナカルベカラザルハ。自然ノ數ナリ。人各其入レ有テ
 限リアリ。美ソ内外彼此。共ニ滿溢ナルヲ得。其意固如水
 一智且ソ富マレモ。此ノ如クナル能ハズ哉。其友ニ接ス
 ルニ義ヲ以テシ。愛ニ處スルニ財ヲ愛マザル爲ニハ。平素
 客ヲ饗スルニ。鯛ノ骨ヲ以テスルノ儉素ヲ守ラザルヲ得

況ヤ其智其富如水其人ニ若カザルモノコヤ然レバ則
貴族豪估ト雖氏猶亦儉素ヲ守ラズンバ其家ニ敗ル所
況ヤ寒土貧生獲ト交際ノ爲メニハ叱費濫用ヲ吝マザル
ニ以テ名譽ノ如ク思倣ス者アルニ於テヲヤ是其長ニ長
スルニ善哉ヲ成ニ易ク疾病事故アルニ逢ハバ醫ヲ
共ニ雇フ採カシ身ノ酷ヒテ人ノ憐ミナ知ヒ麻耶地ヲ插
ト浮華俗ヲ成ニ其嗜欲ノ爲メニハ金銀ヲ視ル丁泥土ノ
如クニ信義ノ爲メニハ之ヲ視ル丁寶玉ノ如クスルニ至
ル所以ナリ宋ノ李沆ハ一代ノ賢相タリ人ニ語テ曰ク嘗
論ニ於謂用ヲ節シテ人ヲ愛スノ一語ハ我レ身ヲ終ラ
マテ行フニ盡スヲ能ハズト嗚呼如水モ亦善ク用ヲ節シ
テ人ヲ愛スト謂フバキナリ今世ノ人士以テ如何ト爲ス

第八 家康公茶儉ノ事

家康公ノ駿州ニ在リ日近臣某美麗ナル袴ヲ着ケテ公ノ
前ニ出タリ公其名ヲ問フ曰ク茶守ト名クルセリナリト
公慨然ト色ヲ變ジテ曰ク汝ガ我レハニモ未ダ知ラザル
美麗ハ服ヲ着クハ何事ゾヤ天下久シク亂レ萬民塗炭
ニ苦ミシモ近來漸ク平和ニ趣ク然ルニ早クハ騎倭ノ心
ヲ生ズルハ是レ亂ノ端ナリ汝ガ如キ奢侈ヲ好ム者ハ
我ガ左右ニ居ク可カラスト痛ク叱責セラレタリ
英勝院女房一名或時公ニ上言シテ曰ク公常ニ茶儉ノ白
衣ヲ服セラルト雖此之ヲ賤婢ヲシテ着ハシムルニ
リナリ侍女ヲシテ濯ハシムレバ茶葉ノ手指血流ルニ
至リ衣々難色アリ裨衣ヲ服セラレザルニ可ト云フヤト

公之ヲ聞キ曰ク婦女ノ理ヲ解セザル之ヲ言フモ益ナカ
ル可シト雖トモ諦カニ我が言ヲ聽ケ御等ハ駿府ハ倉庫
ハ其ノ視テモ其多キニ駭ク可シ京都大坂其他ハ地方ニ
於テハ亦倉庫アリ布帛ハ山積ス故ニ日ニ百匹ヲ服シ
タリトモ其足ラザルヲ憂ヘズ然リト雖氏子孫萬世ノ爲
メ天下衆庶ノ爲メモ思フガ故ニ常ニ澣衣ヲ服ス何トナ
ルハ道一奢後ヲ惡ムモノナレバナリト

公或時一室ニ入リシテ其袴ヲ亮隔ノ鈎匙ニ掛ケタ
リ公キヅカラ之ヲ外ツシ氣ヲ噓シテ緞ヲ直サレタレバ
近臣輩見テ微笑スル者アリ而シテ後チ公近臣ニ謂テ曰
ク我レ袴ヲ愛ムニ非ズ此袴ハ貧窶ナル婦女ハ辛苦一成
ルシモハナリ人トシテ其需用スル所ハ品物ハ如何ニテ

成リシヤヲ知ラザレバ猶小禽獸ニ均シ故ニ恆ネニ此思
ヲ思ハズンバ世ヲ治ムルコトヲ得ベカラズト

公豊臣關白ト和スルノ年濱松城ニ在リ一日寒風凜烈
リ即チ左右ニ命ジテ外套ヲ致サシム侍醫近藤維殿一繡
被ヲ進ム即チ豊關白ノ贈ル所紅梅鶴章光彩目ヲ奪フ公
覺感シテ曰ク烏ゾ此華麗ナル者ヲ用キンヤ吾レ曾テ豊
家ニ巴ムヲ得ズシテ一タビ之ヲ着ス今豈ニ再ビ着シ以
テ我家朴素ノ風ヲ破ル可ケンヤト更ニ他ノ短挂ヲ呼デ
之ヲ服ス

櫻所子曰ク易ニ曰ク節スルニ制度ヲ以テマ財ヲ傷ラズ
民ヲ害セズト禮記ニ曰ク入ルヲ量テ出ルヲ爲スト經濟
ノ學タル深遠廣高ナリト雖氏其要此ニ外ナラズ而シテ

世人モ亦此理ヲ知ラザル者ナシ。而カレ氏之ヲ實際ニ行
フハ太ク難シ。何トナレハ。衣服飲食宮室ヨリ。玩好ノ器具
ニ至ルマデ。人欲ハ限り無クシテ。財用ハ限りアリ。限リア
ル財ヲ以テ。限り無キノ用ニ供スレバ。則チ財竭キ民窮ス
ルニ至ル。古來明君賢相ハ。皆ナ能ク已レニ克テ。儉素ヲ行
フ。即チ漢ノ文帝。百金ノ費ヲ愛ムデ。露臺ヲ作ラズ。上書ノ
囊ヲ聚メテ。帷幕ヲ製シ。幸スル所ノ夫人。衣地ヲ曳カザリ
シ。如キ。明ノ太祖。散騎舍人ノ衣服鮮麗ナルヲ見テ。其價
ヲ問フ。五百貫文ト答フ。帝大ニ驚キ。五百貫ハ。農夫數口ノ
家ノ歲ノ實ナリ。是ヲ一衣ニ費ヤス。驕奢太シト痛ク譴責
セラレシガ如キ。傳ヘテ以テ歴史ノ美談トシ。人口ニ膾炙
ス。善中哉。徳川氏ノ起ル。儉素ヲ以テ守成ノ主義トシ。豊家

ノ豪奢ヲ學ビ。子孫ノ爲メ。家衰ノ爲メ。計畫ムル所。深ク
且ツ速キ。漢文。明祖ニ耻ヂス。是則チ三百年間ノ太平ヲ
致セシ所以ナリ。而シテ其衰運ニ趣クヤ。奢侈ヲ事トシ。帑
廩空乏シテ。聚斂益甚シク。賄賂公行シ。紀綱紊亂シ。國力凋
弊シテ。亦如何トモス可カラザルニ及ベリ。節儉ト奢侈ト
ノ。治亂興亡ニ關スル。此ノ如ク。赫トシテ火ヲ視ルヨリ
モ明カナリ。天下ノ大ヲ保有スル。尚ホ且ツ然リ。況ヤ士族
入ノ小財産ヲ所有スルモノヤ。苟モ儉素ヲ守ル。則チ爲
サズ。奢侈淫靡ヲ事トスルアラバ。志操之カ爲ニ折ケ。信義
之ニ由テ泯ビ。亡身敗家立ドコロニ至ラン。何ゾ其他ヲ顧
ルニ暇アラムヤ。

第九 伊直孝衣ヲ乞フタル事

井伊直孝大坂ノ陣營ニ在リ。時寒冬ニ屬ス。一日二人ノ士
ヲ遣シテ斥候トス。歸路雨ニ逢ヒ。滿身濕濡セリ。直孝其衣
ニ領ヲ脱シテ。二人ニ與フ。而シテ之ニ換フルノ衣無シ。人
ヲシテ安藤直次ニ襖子ヲ乞ハシメテ曰ク。僕ガ附身ハ故
衣ハ雨ニ逢フテ。歸リタル家ニ與ヘ換ヘ服ス。ハキ衣無
シト。而シテ直次ノ贈レル衣ヲ穿テ。革袴ヲ着ケテ。屢將軍
ノ前ニ出テタリ。

附記

井伊直孝ノ封セラレタル彦根ハ。畿甸ニ近接シ。琵琶
湖舟楫ノ便アリ。屢京洛ニ來往スルヲ得ルヲ以テ。元和
假武ノ後キハ。其藩士ノ風漸ク奢侈ニ赴キ。美鬢ナル衣服
ヲ好ム。直孝其風俗ヲ矯正ス。ベキ事ヲ思惟シ。江戸ヨリ歸
程ニ上ルル前。從者ノ數ヲ計リ。綿衣ヲ裁セシメ。而シテ彦根

ニ達スルノ日。早晨旅館ニ於テ。從者ニ之ヲ分チ服セシメ
タリ。彦根ノ七。出テ。侯駕ヲ迎フルモノ。各被服シテ城外
ニ鵜行鷺列ス。前發ノ上盡ク綿衣ナルヲ視テ。少ク恠ム色
アリシニ。直孝ハ橋窓ノ間ヨシキ望視ス。ハ。頗ル垢臆ナ
ル。綿衣ヲ穿テタリ。諸士漸汗背ヲ浹小シ。其服シタル所ハ
美服ヲ裂カント欲スルハ。思ヒアリ。爾來華美ヲ好ム。風
漸ク地ヲ拂フニ至レリト。

櫻所子曰ク。今日ノ形狀ヲ以テ視レバ。假令昔時質素風ヲ
成セ。雖氏三十萬石ノ封土ヲ有シ。徳川氏柱石ノ臣々
ル。井伊直孝其人ニシテ。衣ノ脱換スベキモノ無カリシト
イフハ。信シ難キガ如クナリト雖氏。當時儉素ノ此ノ如ク
ナルヲ想ヒ見ル可シ。物移リ星換リ。三百回ノ春秋ヲ經過

シタル今日ニ於テハ、都會城邑至ル所羅綺ヲ纏ヒ、端繡ヲ
翻シ、房室ヲ窺ヘバ、禮紋花ノ如ク、街衢ヲ望ムバ、華彩雲
似タリ、今古變遷ノ情態、仙凡境ノ異ニスルカ如ク、是固
リ昭代ノ恩波ナリト雖、亦華美ヲ專ラトシ、死費濫用ヲ
節減シ、以テ有益ナル事業ニ努力セズンバ、愛國ノ民ニ非
ルナリ。

第十

紀列侯賴宣ノ生母粧資ヲ指テ、士ヲ養フ事

紀列侯德川賴宣ノ生母ヲ阿萬ノ方ト曰フ、嘗テ人ニ語テ
曰ク、諸公子ヲ愛シテ、之ニ獻スルニ、名劍寶器ヲ以テスル
ハ、尋常ノ事ハ、以爲ク國家ニ藩屏タル主將ノ寶ト
スル者ハ、名劍寶器ニアラスシテ、勇武ノ士ヲ得ルニ在リ、
善シヨ、日事テ、ハ、際セバ、勇士ヲ命テ、將トシ、如何ヲ侍マ

シマ、聞ク、高麗右衛門ハ、爲主ノ爲メニ、鎧ヒヲ、踏、跌、坎、軻

ナリ、此、人ヲ得テ、以テ、公子ヲ擁護セシメ、ト欲ス、願フニ、
名劍寶器ニ勝ル者、于ゾ、乃チ、毎歲受クル所ノ、粧資五百
金ヨリ、二百金ヲ除キ、之ヲ、團右衛門ニ、贈致シ、以テ、他日ノ
用ヲ待ツト。

揚所子曰ク、裙釵衣帶ヨリ、以テ、粧奩鏡函ニ至ルマデ、其華
美鮮麗ヲ欲シテ、費用ヲ愛シマス、翻テ、親戚朋友ニ贈遺ス
ルニ至テハ、頗ル、慳吝ニシテ、眉ヲ、蹙メ、心ヲ、捧クルニ至ル
ハ、婦女ノ、常態ナリ、縱使、韃索以來年ヲ、閱ガルノ、昔日ニ於
テ、ハ、富メバ、則チ、必ズ、驕ルハ、英雄豪傑ト雖、免カレザ
リ、所ナリ、然ルヲ、況ヤ、婦女ノ、身ヲ、以テ、其脂粉ノ、資ヲ、捐テ
テ、國家ノ、爲ニ、勇士ヲ、養フガ、如キ、了ヲ、ヤ、紀侯賴宣、天資英

邁勇武ヲ以テ世ニ稱セラル。蓋シ母教ノ薰陶スル所ニ由ルナルベシ。嗚呼候ノ生母亦絶世ノ賢婦ナル哉。

第十一 水戸黄門光國ノ金言

黄門常ニ其臣屬ニ訓誨シテ曰ク。天下國家ヨリ以テ。賤人ニ至ルマデ。節儉ヲ以テ最上ノ德行トス。今ヤ治平日久クシテ。上下恬熙。日ニ奢侈ニ赴キ。衣服飲食宮室器具ニ至ルマデ。競ニ華美ヲ貴ブ。故ヲ以テ一國ニ一家ニ其費用殆ンド支ハ難カラントス。是リ在上ノ君子富貴ニ生長シ。榮華ニ慣習シテ。心ヲ斯ニ用キラレザルヨリ。其風俗自カラ下モニ及ヘルナリ。殊ニ詭説ノ爲メニスル。進獻ニ美麗ヲ極メ。厚遺其執事近臣ノ輩ニ及ビ。以テ弊ノ盛ヲ拂フ。此風一タビ行ハル。コリ。天下窮乏ノ基トハナレリ。況ヤ頻リ

土木ヲ起ス。一ヲ好ム世ニシテ。諸國ニ其費ヲ課セラル。ガ故ニ。國主ハ之ガ爲メニ萬金ヲ捐ツ。國主歳用給セザレバ。自カラ士農工商ヲ虐ケテ。其闕ヲ補ハザルヲ得マシテ。遂ニ一國ノ窮乏トナレリ。治平久シクシテ此ノ如クナルニ至ルハ。古來皆然リ。縱使弊高ノ徳ヲ慕フニ及バザルモ。止ムト無クハ漢文ノ節儉ヲ專ラトセラレシヲ以テ家給シ人足ルニ至リシ。一ヲ模範トセラレシ。一ヲ欲スルナリ。士庶人モ各自ノ分ニ從テ。節儉ヲ守ラバ。則チ親戚朋友ヲ助ケ。其子孫ヲ教育スルノ資ニ乏シカラズ。然レバ。節儉ト吝嗇トハ混ジ易シ。能ク此分界ヲ辨知ス。ベシ。吝嗇ナルモハハ上心ニシテ之レヲ爲セバ。則チ衆庶服セス。下モ一シテ之ヲ爲セバ。則チ親戚朋友相協大ハズ。理ニ背キ義ヲ缺

ケ下ハミタル可シ

櫻所子曰久。此水戸黄門ノ訓誨ハ年山紀聞ニ出タル竹ニシテ別ニ巧妙ノ工夫ヲ説カレシ者ニ非ズト雖モ殊ニ斯ニ掲グルモ人識者ノ見ル所千古同揆ニシテ亦移動スベカラザルヲ示ス。夫レスチユルトミルハ歐洲ニ於テ經濟學士ノ翹楚トスル所ナリ。其經濟論ヲ著セルヤ中ニ於テ馬鈴薯ヲ樹藝スルヲ以テ凶荒ヲ豫防スルノ最上策タルヲ説ケリ。賢人哲士ノ言ハ平夷ニシテ恠奇人ヲ驚カス者ナク。真理ノ動カス可ラザル者。其中ニ存ス。今世ノ人士。動モスレバ興産殖業ノ策ヲ談ジ。節儉ノ要務タルヲ知らズ。害ヲ攘フコトヲ外ニシ。而シテ利ヲ興ス。コトヲ務メバ。國家ノ富強立ドコロニ致スベシト爲ス。殊ニ知らズ。利ヲ

興スハ害ヲ除クニ若カサルコトヲ夫レ財ハ天雨鬼輸ニ非ズ。天地間復タ何ソ儉素ヲ守ラズシテ富ヲ致ス。術アラシヤ。世ノ富國ノ策ヲ講スル人請フ三思セヨ。

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事

岡野左内ハ上杉氏ノ臣ナリ。景勝ニ仕フ。其封ヲ米澤ニ移スニ及ビ。去テ蒲生秀行ニ仕フ。食祿一萬石ナリシト云フ。左内恆ホニ貨殖ニ志シ。家巨萬ノ富ヲ致ス。而シテ大小判。及ビ他ノ碎粒等。金銀ヲ一室内ニ排列シ。以テ娛樂ト爲ク。毎月必ズ二三回ニ及ブ。人聞テ之ヲ賤シム。偶隣問相隣者アリ。人アリ來テ報ス。左内怡モ室内ニ在リ。黃白ヲ辨當スルニ暇マ無ク。直子ニ往テ之ヲ和解シ。翌日ニ至テ返ル。黃白猶ホ室中ニ狼藉タリ。衆始メテ其大度ナルニ服ス。是

ヨリ先キ關ヶ原ノ役アル。左内永樂錢一萬貫ヲ景勝ニ獻
 ジテ曰ク敢テ軍需ヲ資クルニハ非ズ聊カ以テ將士ノ勞
 ニ酬ヘント馬奴アリ黄金一枚ヲ珍藏ス左内大ニ之ヲ奇
 トシテ曰ク人ノ心ヲ用ユル當サニ此ノ如クナルベシト
 之ヲ賞スルニ十金ヲ以テス仕ヘテ忠御ノ時ニ至ル其病
 革カナルヤ金三萬兩ヲ忠御ニ獻ジ三千金ヲ以テ其弟忠
 知ニ獻ジ曰ク以テ平素ノ恩ニ報スト亦五金十金ヨリ以
 テ百金ニ至ルマデ諸友ニ遺贈スル各等差アリ而シテ舊
 券ハ其櫃トトモニ之ヲ燒ク
 櫻所子曰ク世ノ貨殖ヲ事トシ素封ノ富ヲ致ス者ヲ視ル
 ニ怪吝貪汚至ラザル所無キ者多シ珠ニ知ラス貨財運動
 ノ妙機神算ハ積ムテ能ク致シ國ヲ利シクシテ人ニ及ブニ

在ルヲ左内ノ如キ一類ハ貨財運用ノ妙ヲ會得スル者
 一節ノミヨリ其券ヲ燒クガ如キニ至ラハ左内ノ物際
 點塵着カズ清風洒々如ク世ノ萬金ヲ債トシテ而シテ券
 ヲ斗鐘ニ折ク能ハル者以テ如何ト視ルヤ
 第十三 備前候光政軍鞋奴ヲ逐ヒシ事
 備前候光政或時城壕ニ泛ベル水倉ヲ彈射セント家臣某
 屋背ニ出テ之ヲ窺フ軍鞋奴門道ノ外ニ於テ其副刀
 ヲ脱シ内ニ入ル光政歸ラントスルトキ之ヲ見テ曰ク何
 人ノ副刀ナルヤト傍ニ在ル者答ヘテ曰ク公ノ奴ノ帶ブ
 ル所ナリト光政色ヲ變ジテ曰ク縁ヲ以テ靴ヲ潔ス分ニ
 應ゼザルハ華奢ヲ好ム者ナリト直チニ其奴ヲ逐フ此ヲ
 傳ヘ聞ク所ノ斬輿僕隸等渾テ其刀靴ヲ潔スルニ革ヲ以

ニ至ルニ至レリ。

櫻所子曰ク、備前侯ノ英明ナル、儒術ヲ尊ビ、藩士ヲ愛養シ、封内ノ人民ニ其恩澤ニ浴セルカ、如キハ、世人ノ過トク知ル所ナリ、而シテ五帛禮幣ヲ厚フシテ、名儒ヲ招キ、手鑑ノ禄ヲ發マズシテ、名士ヲ養ヒ、民ノ疾苦ヲ問ヒ、赤子ヲ安ンマルガ如クセシモ、未ダ嘗テ帑廩ノ闕乏ヲ訴フルニ至ラザリシ者ハ、他無シ、公ガ自ラ奉ズル太々薄クシテ、士風ノ太平ニ慣レ、奢侈ニ趨ルノ源ヲ遏止セント、深ク意ヲ用弁ラレシニ由ル、ハ世人或ハ之ヲ知ラザル者アリ、聞ク備前新太郎少將以來、江戸ノ市民ハ衣服其他ノ質素ナル士人ヲ視レバ、一目シテ岡山ノ藩士ノルヲ識別シ、緝シテ備前風トイフ、享和ノ末ニ至ラハ、其餘影殘響ノ漸ク派

滅トシニヤ、江戸ノ市民モ亦容易ニ識別シ能ハザルニ至レリト、光政ノ質素ヲ以テ一藩ノ風尚ヲ成セル者ハ、則チ謚シテ芳烈ト曰フ、所以ニシテ、民其澤ヲ被ムルノ本ナルベシ。

第一 酒井侯忠清補綴セル和服ヲ服ヒシ事

酒井忠清ハ幕府ノ執政トシテ、威權アリシ人ナリ、或時殿中ニテ汗出タレバ、和服ヲ脱シテ、欄頭ニ曝ニセシヲ見ルニ、所々補綴セルモノナリシト、櫻所子曰ク、應仁以降、群雄割據、四海鼎沸シ、民其生ヲ聊ンゼザルモノ、二百年、徳川氏衰亂ノ餘リヲ養々テ、一意勤儉、以テ斯氓ヲシテ蘇息セシメントスルニ在リ、且ツ戰亂、日久ク、雨ニ沐シ、風ニ梳ルノ餘習、未ダ全ク脱セズ、故ヲ以テ

麗衣鮮食ハ、武人ノ風尚ニ於テ耻トスル者ノ如シ。然リト雖、酒井侯ノ如キハ、身有土ノ諸侯トシテ、夫下ノ政柄ヲ執ル。國ノ大臣タリ。然ルモ猶ホ修補セル相服ヲ服シ、以テ政事堂ニ上ボル。況ヤ其他ヲヤ。古人曰ク、治ヲ致ス難キニ非ズ。治ヲ保ツヲ難シト爲スト。何トナレバ、天下ノ未ダ治ラザル。上ノ焦心苦思スル所、下ノ進計獻議スル所。治安ヲ是レ圖カルモノニ非ルハ無シ。天下既ニ治安ヲ致シ、亦憂フベキモノ無ケレバ、則チ上下逸樂ニ相從ヒ、間暇ニ相忘ル。故ニ天下治リ、而シテ畏ル可キ者始メテ生ジ。天下安ク、而シテ憂フ可キ者始メテ萌ス。然ルニ慶元僊武ヨリ、明曆萬治ニ至ルコロマデハ、尚ホ治安ヲ保ツニ孜々シテ、逸樂間暇、以テ屍ヲ馬革ニ裹ム。昔日ノ慘苦ヲ忘ル。一至ラス。

當時ノ士風、起見ハバシ、宜ナルカ大昇平ノ基ヲシテ、益輩固ナラシメ、民其澤ヲ被ル。三百年ノ久シキニ及ビシ。

第一五 上井利勝零絲ヲ棄テザリシ事

大炊頭上井利勝、一日漢絲、零餘一尺ハガリナルヲ以テ、近臣大野仁兵衛ニ付シテ曰ク、汝ヲ謹ムデ之ヲ藏メヨト。衆其鄙吝ナルヲ笑フ者アリ。利勝置テ問ハス、三年ヲ經テリ。偶利勝腰刀、縹解ケタリ。仁兵衛ヲシテ、往キニ付スル所、漢絲ヲ持テ來ラシム。仁兵衛直チニ之ヲ腰袋ニ取り、以テ呈ス。利勝手ツカラ其絲ヲ以テ刀縹ヲ約シ、欣然トシテ微笑シテ曰ク、無用ハ用、今ニシテ驗アリト。遂ニ其宰寺田某ヲ召シテ曰ク、孤甚ダ仁兵衛ノ謹愼ニシテ、主命ヲ重ンズルヲ嘉ミス。ツレ祿三百石ヲ増シ與ヘヨ。抑モ漢絲ハ

物ハ心。彼國ニ在テ。桑婦蠶織。辛苦ハ手ニ成リ。展轉運輸シ。融タル碧水ヲ航シ。以テ我地ニ入ル。其人ハ勞カヲ經ル。幾干バヤ。則チ尺亦ハ零餘ト雖。氏徒ニ之ヲ壘芥ニ委スル者。心。是レ大物ヲ棄ルナリ。孤ガ恆ニ畏懼スル所ナリ。而シテ仁兵衛。之ヲ守テ失ハズルハ。之ヲ天ニ事スル者ト謂フ。モ可ナリト。輒チ戲レテ曰ク。一尺ノ絲。三百石ノ祿ヲ博ス。獲ル所亦多シ。鄙吝ヲ笑フ。モハハ之ヲ如何ト視ルヤト。櫻所子曰ク。土井利勝ノ如キ。節儉ノ道ヲ知ル人ト謂フベキナリ。世人多クハ千万金ノ容易ニ得可カラザルヲ知テ。而シテ錢。蠶ノ重シズ可キヲ知ラズ。殊ニ知ラズ。錢。蠶ヲ積ミ以テ巨萬ノ額ニ至ルベキヲ。然ルニ零絲斷絹モ。猶ホ之ヲ重シジテ。而シテ其土ノ實スルニ三百石ヲ以テシテ

愛シマズ。利勝ノ如キハ。節儉ノ理ニ達セル人ト謂ノ可キナリ。今世ノ巨萬ノ富ハ企及ブベカラズトシテ。錢。蠶ヲ泥土視シ。錙銖ヲ塵芥視シ。自ラ十金ヲ費スヲ愛マサルモ。人ニ一金ヲ與フルヲ欲セザル者。豈利勝ノ風ヲ聞テ興起セサルベケンヤ。

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事

備前侯光政ノ嗣子。綱政。一日美濃紙ニ書シ。字ヲ誤リ。更ニ之ヲ寫ス。前ノ紙ヲ以テ近臣某ニ付ス。某受ケテ之ヲ爛ト棄テ。爛紙トス。綱政責メテ曰ク。汝ダ何ゾ妄リニ紙ヲ棄ルヲ爲ル。復タ必ス適應ノ用ニ供ス可キナリ。片紙尺楮ト雖。亦多クハ勞カヲ費シテ成レル者ナリ。我敢テ紙ヲ吝ムニ非ス。其勞カヲ愛ムナリト。

附記

水戸黄門光國、深ク紙ヲ愛シシ。書翰ノ封套ハ長短ヲ問ハズ、之ヲ接ギテ詩歌ノ草稿ヲ起スノ用ニ供ス。坐上ニ水ヲ滴ラス等ノ事アレバ、之ヲ拭フニ紙ヲ用キス。必ズ布片ヲ以テス。恒ニ女監等ヲ戒メ、妄リニ紙ヲ費ス可カラズトイフ。然レ氏猶ホ紙ヲ費ス可多シ。一日女輩ニ語テ曰ク、**秋紙**ハ觀ヲ取ル可キ者ナリ。往テ觀ヨト。即チ脂粉一隊、**松草村**ニ在ル**秋紙場**ニ赴ク。川上ニ**猪棚**ヲ架ス。坐スル所ニハ實上ニ**涼障**一片ヲ籍ク。此日北風乘烈寒威膚ニ迫ル。紙ヲ秋スル男女ハ、ミナ赤脚ニシテ水中ニ俯仰ス。女衆大ニ驚キ、且ツ其寒ニ耐ヘズ。歸テ後チ秋紙者ノ艱苦ヲ説ク。黄門曰ク、紙ヲ裁スルノ業此ノ如クソレ易スカラザルナリ。故ニ妄リニ費スベキニアラザルヲリト。爾後後房ノ内、

亦多ク紙ヲ費ス者無キニ至レリ。

櫻所子曰ク、良齋翁曾テ南史ニ、**沉麟士**ガ火ニ遭テ書數千卷ヲ燒キ、年六十ヲ過ギ、耳目聰明、反故ヲ以テ秋紙シ。復々一三千卷ヲ爲ストイヒ。三輪執齋ガ養子ノ説ヲ記セシ文人。反故ニ書ヒリ云々ノ事ヲ引キ、和漢トモニ製造未ダ盛ナラス。諸物不足ナルヲ以テ、之ヲ愛重シ。人モ亦儉素ヲ守レルコトヲ識シ。又翁ガ所藏ノ淮海擊音ト題セル、嘉曆四年ニ寫シタル本ハ、半紙ノ如キ紙ニテ、其半面ニ一行廿八字十四行トシテ、空紙無キヲ見バ、古ヘ紙ノ不足ニシテ、且ツ儉素ナリシト想ヒ見ル可シトイヘリ。彼庭訓往來ニ、白紙**端底**ハ間、反古ヲ用、ムル所ナリトイフモ、亦妄ナラザルヲ知ル。備前侯ニ、水戸侯ニ、身大藩ノ主トシテ、猶ホ隻紙ヲモ

其リニ費サバリシヲ視バ。假令其製造ノ器械猶ホ乏クシ
テ。人カヲ勞スルノ多キニ由ルト雖モ。抑モ亦儉素ヲ尚フ
ノ一斑ヲ窺フニ堪タリ。今世製造ノ業。未ダ大ニ振興セズ。
シテ。紙ヲ費スドノ多キ。或ハ昔日ニ十倍セン。故ニ供給ハ
常ニ需用ヲ充タスニ足ラス。紙モ亦外輸ヲ仰グ。其價格亦
隨テ翔貴セリ。特リ紙ノミナラス。布絮絹帛皆然ラザルハ
無シ。故ニ興産起業ハ。目今我邦ノ急務タル。世人ノ論究シ
テ。措カザル所ナリ。其人々儉素ヲ守リ。妄消浪費セザルノ
一事モ。亦今日ノ最大要務ト謂フ可キナリ。

第十 家忠公ノ乳媪本多正信ヲ面斥セシ事

將軍家忠公ノ乳媪某氏。其名ヲ逸ス。蓋シ參河ノ人ナリ。人
呼ンデ大婆公ト曰フ。媪賢ニシテ丈夫ノ風アリ。公乳育ノ

故ヲ以テ。之ヲ視ル。阿母ノ如クセリトイフ。媪他ノ嗜好
無シ。但。毎月二三。次。盡ク。粥。饌。僕。隸。ヲ。厨。下。ニ。致。シ。テ。飯。ヲ。大
盤ニ崇リ。一々之ヲ。饌ニ。張。シ。テ。身。親。カ。ラ。饋。シ。以。テ。之。ヲ。供
ス。奴輩感戴シ。其故。饌ヲ。極メ。テ。此。ヲ。以。テ。平生ノ。娛樂
ト爲ス。一日本多佐渡守正信來リ候フ。其親饋スルヲ見テ
驚テ曰ク。大婆公。侍婢使令足ラザルニ非ズ。何ゾ苦ムテ自
ラ饋クルヲ之レ爲サンヤ。媪憮然トシテ。襟ヲ。疊。ヘ。テ。曰
ク。此。來。人。子。ヲ。謂。テ。驕。奢。稍。甚。シ。ト。爲。ス。妾。之。ヲ。聞。キ。敢。テ。信
セ。リ。知。リ。乃。知。今。ニ。シ。テ。其。誣。妄。ナ。ラ。ゲ。ル。ヲ。知。ル。子。モ。亦。彌
ハ。郎。タ。リ。シ。時。ヲ。忘。レ。タル。ヤ。妾。昔。シ。微。ナル。時。一。飯。ノ。恩。カ
人ニ施サント欲シテ。且ツ得ベカラズ。今ヤ此大饗ヲ設ケ。
奴輩數十人ヲシテ。快然飽食セシムル者ハ。悉ク皆ナ邦家

ノ恩ナリ。而シテ獨ハ微賤ハ時ヲ忘レテ可カラシムヤ。子ハ天下ノ大老タリ。是ヲ之レ問ハズシテ徒勞ヲ以テ擬セラ。吾是ヲ以テ子ガ驕奢ニシテ自ラ省ル能ハザルヲ知ル。其政務ニ放シテ如何モ亦推知スベシト。正信報然トシテ言無クシテ去ル。

櫻所子曰ク。二代將軍ノ謹厚タル。天稟ト曰フト雖此亦外良師傳ヲ得。以テ之ヲ輔翼シ。内チ乳媪ノ賢アリ。冥助暗養スル所アルニ由ルカ。今世微賤ヨリ出テ。搢紳貴族ノ乳母タリ。妻妾タル者蓋シ少ナカラズ。而シテ富貴ニシテ微賤ノ時ヲ忘レズ。馬輿僕隸ニ親饋スルヲ娛樂トスル。大蔭公ノ如キ者アルカ。多クハ驚歎ニシテ。賓客アリト雖トモ出テ。接ヒス。揖進ノ餘暇ニハ。則チ三絃ヲ弄シ。月琴ヲ解

シ。申論本ノ細。以テ時月ヲ消シ。訪花觀劇ヲ以テ娛樂トシ。此ノ如キ者アルカ。多クハ驚歎ニシテ。賓客アリト雖トモ出テ。接ヒス。揖進ノ餘暇ニハ。則チ三絃ヲ弄シ。月琴ヲ解。冥助暗養ノ効アルカ。多クハ驚歎ニシテ。賓客アリト雖トモ出テ。接ヒス。揖進ノ餘暇ニハ。則チ三絃ヲ弄シ。月琴ヲ解。

第十八 青木氏部少輔額ノ象禱ヲ謝セシ事

青木氏部少輔額ハ。板倉伊賀守厚ク之ヲ遇シ。額ヲ以テ或シタル象禱ヲ供ヒリ。民部少輔余ハ。衿ヲ執リ。其頭ニ加ヒテ謝シ。少曰ク。我未ダ此ノ如キ。臥被ニ纏ハレテ夢ヲ結ビ。如ル下無シ。敢テ辭セハト。是ニ於テ。更ニ木綿ノ象禱ヲ供ス。當時ノ大名ハ。概ネ此ノ如キ風俗ナリシトイフ。額所子曰ク。惟ルニ應仁以降。元和ニ至ルマテ。四海騷然トシテ。世ノ武門武士タル者。平素尸子馬革ニ裹ムノ日アル

丁ヲ忘レテ、人民、衰弊亦極ル。故ニ萬鍾ノ禄ヲ食ム者ト雖モ、其衣服飲食、質素ナル。慣習俗ヲ爲セシ者ナルベシ。然レト雖凡、今世家萬鍾ノ禄アルニ非ス、亦素封ノ陶猗ニ比スベキモ、一ニモ非スシテ、其卧榻衾蓐、美錦食器、タリトモ謂フベキモノニ纏ハレテ、高眠スル者アリ、或ハ恐ル事輩カ、他日綿衾ヲモ、其袴ヲ執テ頭ニ加フルニ至ランユトヲ。

第十九 大河内金兵衛 松平信綱ヲ訪フ事

大河内金兵衛、一日關老伊豆守信綱ヲ訪フ、信綱出テ、接ス。時恰カキ嚴寒、風刀剪ルカ如ク、戸隙ヨリ來ル。信綱曰ク、命カ老健ヲ以テスルモ、寒ヲ覺フルハ、壯年ノ者ニ勝リルベシ。伊豆ヲ嚴シク候詰セラルハ、亦何ゾ妨ゲント。金兵衛

其言ノ謝シ。故ヤ木綿ハ巾ヲ懷ヨリ出シテ、之ヲ被ムル信綱左右ニ命ジ、種々ノ細織ヲ以テ裁セル巾、凡ソ十有餘個ヲ齎チ來ラシメ、意ニ適フモノアラバ、之ヲ取レト謂フ。金兵衛曰ク、僕ガ巾ノ故クシテ且ツ粗ナルヲ以テ、此クノ如クセラル、ナルベシ其言ハ感謝スルニ堪タリ。然リト雖、巾也者ハ、公ニ用ルズ。其松ニ於ケルモ、人ニ逢フハ、之ヲ脱セザル可カラズ。巾ノ美ナル亦何ノ益カアランヤト遂ニ取ラズ。

櫻所子曰ク、松平伊豆守ハ、徳川氏股肱ノ良臣ニシテ、世稱ジテ智囊ト爲ス。酒井忠世、青山忠俊ト並ニ家光將軍ノ傳トシテ、寛永ノ三輔ト名久。徳川家守成ノ業ニ於テ謀畫スル所多シ。大河内金兵衛ハ其父ナリ、亦恆ニ三輔相ノ職任

ヲ重シテ敢テ伊豆守ニ驕ラズ。而シテ巾ノ美ナル亦何ノ益カ。アランヤノ一語。拔山ノ氣ハ昂ノカヲ有ス。金兵衛亦權臣施政ノ如何ニ注目シ。一舉一動苟モ其心ニ慚セザル者アレバ。直言以テ之ヲ折ク。伊豆守ノ父タルニ耻ヂズトイフベシ。吁。寛永ノ時代。何ゾ良臣ノ多キヤ。

第二十

酒井忠真綿衣ヲ以テ納徴トセシ事

酒井修理太夫忠真。其婚娶ノ前ニ當リ。木綿衣十領ヲ以テ納徴トス。老臣等恠ニ問ス。忠真曰ク。孤ガ藩士ヲ撫育シ。且公ニ對シテ其職ヲ盡サンコトヲ欲スレバ。則チ節儉ヲ事トスルニ若カズ。故ニ狐モ亦恒ニ綿衣ヲ服ス。又我が妻タル者ヲシテ。善ク此意ニ順ガハシメザル。可カラズ。若シ之ヲ否ナマバ。難昏スルハ一事アルハ。

櫻所子曰ク。忠真亦一城ノ主タリ。而シテ其妻ヲ娶ル。綿衣ヲ以テ納徴トス。今ヤ寒鄉僻地ノ農夫モ。猶ホ綿紬ヲ裁シテ其婦ニ衣被ス。今古開化ノ度同ジカラスト。雖モ其公ニ奉ズルト。私ノ業ニ從事スルトニ論無ク。忠真ノ心ヲ以テ心トセバ。世人ノ所謂。獨立自活ノ精神ヲ振起スルニ足ルベシ。其素行若シ此ニ反スレバ。其結葉モ亦之ニ反ス。

第二十一

酒和田喜六獨斷ヲ以テ金ヲ貸シタル事

積ムテ善ク敬ズルハ。節儉ノ效用ナリ。若シ財ヲ積聚シテ丘山ノ如クナルモ。此ヲ活動スルコトヲ知ラザルハ。是レ守錢奴ノ如ク。今其財ヲ活用セシ酒和田喜六ノ事ヲ記セン。喜六ハ寛永時代ノ人。永井信濃守ニ仕フ。信濃守江戸ニ赴クニ當リ。喜六ヲ留メテ藩務ヲ総バシム。藩士家計ノ給セ

ナルヲ訴ヘ。金ヲ貸與ヒンコヲ喜六ニ要請ス。喜六即チ其
主ニ請ハズシテ。金庫ヲ開キ。銀子千貫目ヲ貸ス。信濃守江
戸ヨリ歸ルニ及デ。喜六ヲ責メテ曰ク。汝ガ何ガ孤ニ告ゲ
ズシテ銀ヲ貸セシヤト。喜六頓首シテ謝シテ曰ク。某固ヨ
リ之ヲ申請スルモ。允可セラレザル。小ヲ知ル。何トナレバ
令某ガ請ハズシテ貸與セシヲ叱責セラル。ハヲ以テモ。推
知ス可キナリ。若シ其允可セラレバ。強テ請求スルハ
不敬ナリ。而シテ之ヲ貸サレバ。藩士ノ窮乏ヲ奈何セシ
或ハ止ムヲ得ズシテ。上國ノ商估ニ就テ之ヲ借リ。利子ヲ
其債ニ占有セラレバ。寧レ金庫ニ儲積スル所ハ
モノヲ出シテ之ヲ貸スニ若カズトシテ。請ハズシテ銀ヲ
貸與ヒル。抑モ主公ガ金銀ヲ儲蓄セラル。ハ軍備若クハ

公務ノ爲メニ消費スルニ在リ。藩士ノ窮乏ヲ救ヒ。兵馬ノ
數ヲ減セサル。丁ニ意ヲ用エルハ。則チ軍備ノ基本ニシテ。
士ヲ養テ兵備ヲ怠ラザルハ。則チ公ニ對シテ其職任ヲ盡
スモノト謂フベシ。且ツ夫レ。府庫ノ財ハ之ヲ貸スモ敢テ
消費スルモノニ非ズ。年ニ其十分ノ一ヲ納レシメ。十年ヲ
待テ全ク償還セシムルノ約束ナレバ。上ニ一毫ヲ損ズル
所無クシテ。下ニ凍餓ヲ免ガレ。ハ恩澤ヲ被ムル。是某カ
大利アリ。テ小損ナキヲ見。獨斷ヲ以テ斯事ヲ決行セシ所
以ナリ。嚴責重譴ハ固ヨリ期スル所ニテ候ト云ハケレバ。
信濃守モ其言ノ理アルヲ聞キ。緘黙シテ止ミケルトゾ。
櫻所子曰ク。將軍家光公文武兼備ノ士十七人ヲ陪臣中ヨ
リ選抜セラレシコアリ。酒和田喜六其一ニ在リ。喜六曾テ

林道春ニ從テ。儒經ヲ講究シ。又國風ヲ善クセリトイフ。思
フニ喜六其主ニ害ナク其臣ニ利アルヲ視ルヤ。銀ヲ貸シ
テ危ブマズ。專斷ノ責ヲ一身ニ擔フ。豈ニ毅然タル大丈夫
ニ非ズヤ。幕政ノ稍衰フルニ及デハ。士風亦隨テ萎靡シ。官
倉中陳々紅腐ノ粟ヲ堆シ。而シテ野ニ餓草アレハ發スル
ヲ知ラズ。偶賑恤ノ功蒸アルヲ知ルモ。嫌ヲ避ケテ敢テ口
ヨリ出サズ。唯已レガ地位ヲ危フセザランコトヲ努ム。故
ニ國老藩宰ト雖モ。區々タル例格ノ末ニ拘束セラレ。其藩
廳ニ在ル。凜イテシテ熱ノ幕ニ隳ッガ如シ。敢テ已レガ才
力ヲ展ブルコトヲ知ラザルハ。亦立仗ノ馬ニ似タリ。手ヲ拱
シ耳ヲ垂レ。阿諛讒嘿ヲ以テ相々リトシ。苟且怠慢ヲ以テ
官キニ適フ。其利ヲ知ルモ敢テ爲サズ。其害ヲ視ルモ

敢テ去ラズ。左顧右盼。吏議ヲ免カレ。禍ヲ避クルニ汲々ト
シテ。以テ久安ニ僥倖ヒリ。宜ナル哉。上下隔絶シ。言路壅塞
シ。遂ニ維新革命ノ期ヲ促ガシ。封建制度ノ發絶ナラル。
ニ至リシコト。今ヤ制度一革。小失ヲ畧シテ責ムルニ大綱ヲ
以テシ。下モ其上ヲ疑ヒ。上其下ヲ忌ムヨリシテ。常ニ其肘
ヲ掣シテ其足ヲ係ク所アルカ如キコト無クシテ。而シテ吏
タルモノ。肩背ノ芒刺ヲ釋去シ。意ヲ法令ノ外ニ措クヲ得
ル所アルカ如シ。故ニ阿諛讒嘿。苟且怠慢ノ弊痕ヲ留メズ。
然リト雖モ。已レガ地位ヲ危フスルヲモ顧ミズシテ。上下
ノ利便ヲ謀ルニ。酒和田喜六其人ノ如キニ至テハ。蓋シ得
易シトセズ。然レバ則チ。酒和田喜六ノ財ヲ用ユルノ妙ヲ
知ルガ如キハ。抑モ末ナリ。其主ニ事フルノ至誠ニシテ。即

子滿腔ノ赤心アルト。斷行シテ危ブマザル。斗大ノ膽カト
ハ。實ニ歎稱シテ餘リアリト謂フベシ。

第二十二 綾部道弘其子ノ奢侈ニ習フヲ懼レシ事

綾部道弘ハ。元祿時代某侯ニ筆仕セリ。剛直ニシテ篤行ノ
士ナリ。家貧ニシテ幼キ代學資ノ給スベキナク。艱苦困頓。
東西ニ漂泊シ。聊カモ其志ヲ屈セス。遂ニ儒典ニ通ジ。傍ラ
醫術ニ達セリ。人トナリ親黨故舊ニ厚ク。紛ヲ解キ難ヲ極
ヒ。其等ヲ辭セス。長官ニ對スル。直言。テ忌憚スル所無シ。
人始メ其嚴ヲ憚リ。久フシテ後チ其恩ヲ信ジ。里閭相告ゲ
テ。吾黨ノ君子人ト稱シテ尊メリトイフ。道弘自ラ奉ズル
儉素ハ。シテ華飾ヲ喜バズ。偶人アリ。其子ニ彩飾ハ衣ヲ遺
ス。シテ之ヲ服スルコトヲ許ラズシテ。曰ク。先君貧素ニシ

テ世ヲ終フ。我レ常ニ孝養ノ意ニ任セザルヲ憾ム。吾ヒ亦
辛勤多年。幸ニ俸資ヲ享ケテ兒女ヲ養フト。雖也。豈其本ヲ
忘レテ可ナランヤ。況ヤ人情儉ヨリ奢ニ入ルハ易ク奢ヨ
リ儉ニ復スルハ難シ。我レ吾ガ兒女ヲ愛セザルニハ非ス
奢侈ニ習ハシメザランコトヲ思フコト。又其子ニ教ユル
ニ。四書小學及ビ古文ノ詩ヲ以テシ。絶テ聲伎博局ノ事ヲ
知ラシメズ。又其子安正ハ江戸ニ在リシ日。書ヲ遺テ曰ク。
子蓬蒿ノ間ニ長ジ。螟リニ嶮難ヲ經。以テ今日ニ至ル。未ダ
夙志ノ萬一ヲ償フコト能ハズ。幸ニ汝チヲ生ム。今年已ニ強
仕。早ク衰羸セルヲ覺フ。オモフニ汝チガ成立ヲ見ルニ及
バサレバ。今ヤ汝チガ勤學シテ怠ラザルヲ知り。吾ガ志
願ヲ満足セリ。汝チガ孝モ亦大ナリト謂フ可シ。夫レ道ハ

人倫ニ外ナラス。徒ラニ心ヲ浮華ニ騁セテ、日用ヲ虚フスル勿レ。凡ソ事ノ義ニ害ナキ者ハ、時俗ニ從フベシ。國禮ニ違フヲ勿レト。

櫻所子曰ク、道弘ノ其子ヲ訓誨スル。人ノ父タル者ノ道ヲ盡スト謂フベシ。父母ノ心ハ人ノ心ナ之レアリ、而シテ其子ヲ愛スルノ深キ、之ニ衣食スルニ、鮮麗甘美ヲ以テシ、之ニ習學セシムルニ、歌舞絃管ヲ以テス。故ニ其長スルニ及ハバ、則チ骨軟カニ筋緩フシテ、耐忍剛毅ノ事業ニ堪エス。幸後淫逸ノ嗜好ヲ去ル能ハズ、遊冶男子、淫奔阿嬾ト爲リ、醜ヲ世上ニ流ガスニ至ラザル者アルハ、幸ナリ。既ニ奢侈ト逸樂ニ長ジ、鄭聲衛風、其神經ニ薰染スルモ、人世必需ノ學術、短ナリ。莫ソ其身ヲ立テ道ヲ行ナヒ、榮ノ父母ニ及

ホスコアラヲ望ムベケンヤ。是原ト其父母タル者、兒女ヲ愛スルガ爲メニ、翻テ兒女ヲシテ百年ノ身ヲ誤ルノ不幸ニ陥ラシム。古人曰ク、訓導ノ嚴ナラザルハ、父ノ過チナリト。人ノ父母タル者、宜ク道弘ヲ以テ龜鑑ト爲ス可キナリ。

第二十三

與貫五平次飢民ヲ賑恤セシ事

與貫五平次ハ、武藏國入間郡河越ノ人ナリ。友山ト號ス。世業桑ノ業トシ、邑ノ豪民タリ。少クシテ學ヲ好ミ、江戸ニ遊ビ、業ヲ成島錦江ノ門ニ受ク。學成テ郷ニ歸ル。從學スルモ多シ。寛保中、關東洪水アリ、入間郡最モ其害ヲ受ク。民舍湮没、數十里ニ互ル。五平次即チ食ヲ舟ニ載セ、僮僕トトモニ、鑿ヲ搖カシテ、以テ往キ、餓者ニ飲食セシメ、其濕處ニ視テ、病者ニ悉ク之ヲ載セテ還リ、已レガ家ニ養撫スル數百

人因テ其父ニ請フテ曰ク大人平生兒ニ誨エ儉ヲ力メ用
 子節ス。豈ニ今日ノ急アル爲メナラズヤ。願クハ家世ノ積
 聚スル所ヲ以テ之カ賑恤ニ當テント。父喜ムテ之ヲ許ス。
 是ニ於テ大ニ倉廩ヲ發キ。飢民ニ施與ス。流氓男女傳ヘ聞
 キ争テ臻ル。門前市ノ如シ。五平次多ク粥ヲ作テ。奴ノ最モ
 恭謹ナル者數人ヲ擇ビ以テ之ヲ待タシム。戒メテ曰ク。饑
 者固ヨリ貧ナルニ非ズ。謹ムテ輕慢スル勿レト。至ルハ辱
 ク之ヲ弔慰ス。飢民其辱キヲ拜ス。五平次一ニ賓客一接ス
 ルカ如クシ。壯幼ヲ問ハズ。人ゴトニ米四升ヲ與ヘテ行カ
 シム。受クル者感謝セザルハ無シ。既ニシテ廩盡ク。又人ハ
 シテ金ヲ四方ニ齎ラシ。穀粟及ビ大豆蕎麥ヲ買ハシム。金
 モ亦盡ク。又父ニ請フテ田宅ヲ江戸ノ富高ニ質トシ。金ヲ

得以テ之ニ繼グ。冬十月ヲ翌年ノ夏四月ニ至テ止ム。惠
 施ハ及バ所四十八村。終始救フ所十萬六千人餘。事官ニ聞
 ス。大ニ錢帛ヲ賞賜シ。門閭ニ旌ス。

河越侯秋元但馬守涼朝執政タリシ時。大ニ五平次ガ爲メ
 所ヲ悦ビ。召見シテ時服佩刀ヲ賜フ。爲ニ盛饌ヲ設ケ。其宰
 臣ヨシテ伴食セシム。五平次飯ニ椀羹一椀ヲ喰了。其餘
 ニ及バズ。大夫鮮蓋ヲ啜ル。丁ヲ勸ム。五平次曰ク。四民飢渴
 シ。老釋凍餒ス。王侯ニ非ルヨリハ。甘美ヲ食フ可カラズト
 云フテ。食セズ。

明和中。武藏相摸上野三州荒饑ス。奸民相集テ盜ヲ爲ス。富
 商ヲ劫奪シ。民舍ヲ毀壞ス。暴亂甚ダ多シ。有司坊正之ヲ檢
 スレドモ。其人ヲ知ラス。將サニ友山ガ家ニ及バントス。

人走テ至リ。大ニ其徒ヲ呼デ曰ク。是レ我が奥貫翁ノ居ナリ。昔シ寛保ノ水災翁在ルヲ以テ。我が祖父母兄弟ヲシテ生存ヲ得セシム。汝ガ之ヲ知ルカト。衆大ニ駭キ。相與モニ顧ミテ曰ク。我儕庇息ヲ報スルノ力無シ。而シテ及テ震スベケンヤト。門外ニ俯伏シテ去ル。故ニ其四隣。ミナ之ガ爲メニ暴亂ヲ免ガルト云フ。

櫻所子曰ク。奥貫友山ハ儒學ヲ以テ名ヲ得タル者ナリ。而シテ其爲ス所。尋常腐儒ノ得テ能スベキ所ニ非ズ。宜ナル哉。暴民ノ奥貫翁ノ居ナリト聞ケバ。則チ俯伏シテ去ルニ至ルル。吁。友山ノ如キハ。真儒ト謂フベキナリ。

第二十四

人黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事

江戸十軒店ノ綿糸舗ニ家號ヲ大黒トイフ。名ヲ善兵衛ト

稱スル者アリ。資産殷富ナレバ。自ラ意ヲ家事ニ經セズ。利中ニ生レテ利ヲ脱シ。才識アリテオヲ用キス。故ヲ以テ恆ネニ黒蒼黃赤ノ色。修短寛窄ノ製ヲ錯誤シ。顧客ノ愠怒ヲ受ク。輒チ微笑シテ曰ク。僕稟性過濶ナル。命ズルニ此煩瑣ノ役ヲ以テセラル。豈任用其人ヲ得ガルニ非ズヤ。自反シテ之ヲ恕セヨト。顧客亦笑テ止ム。爲メニ折價スル丁屢ナルモ。敢テ省セズ。亦一奇人ナリ。偶親家橋本某ナル者アリ。年猶小若フシテ父ヲ喪ヒ。放肆蕩散。檢束スル丁ヲ知ラス。娼妓ニ惑溺シ。亦家道ノ日ニ衰頹スルヲ省ミズ。其母憮之ヲ憂懼シ。親族ヲ招テ誠規シ。理義以テ之ヲ折キ。温言以テ之ヲ諭トス。善兵衛席ニ在リ。唯嘿坐シテ煙ヲ喫スルノミ。未ダ始メヨリ一語ヲ置カズ。俯仰次伸シテ。衆ニ先ダツ

テ辭シ去ル。後チ一日。某來謝シテ曰ク。僕ノ愚蒙ナル。久シク親家ヲ累ハス。今ヤ曾非ヲ覺トル。懃悔スレバ及ブ。無シ。然リト雖。僕マサニ將來ヲ戒慎シ。以テ前過ヲ償ハント欲ス。可ナランヤト。善兵衛曰ク。甚ダ善シト。某復タ襟ヲ斂メ。謂テ曰ク。嚮キニ妓ノ僕ニ要求スルニ。春服ヲ以テセリ。僕過テ諾ス。追悔スレバ及バズ。苟モ言ヲ食ム。果サバ。ルハ。男子ハモノ、辱ナリ。僕ガ畢生ノ所願。唯此一事アル。自今以後。誓テ花柳ノ地ヲ履マザラン。善兵衛曰ク。信ニ然ラバ。又何ゾ不可ナラムヤト。某又曰ク。其約スル所ノ衣帶ハ云々ニシテ。漆繡ハ云々ナリ。價約ネ五十金。伏シテ願クハ。子ノ擔當シテ之ヲ作ンコトヲ成ル。日將リニ其直ヲ償ハントス。未ダ知ラズ。皆許セラル。ヤ否ヤト。善兵

衛曰ク。是レ吾ガ業トスル所。之ヲ辨ル。於テ何カシ。ン。但、歳已ニ暮ル。恐クハ速カニ成リ難シ。晦夜以テ期ト爲ス。何如ント。某欣喜拜謝シテ去リ。往テ妓ニ誇テ曰ク。吾レ汝ガ爲メニ春服ヲ命ズト。已ニシテ除タニ至ル。夜マサニ半バトラントス。未タ齋チ來ラズ。某怖ク。數人ヲ差ハシテ之ヲ促ガス。善兵衛是ニ於テ夜ヲ分テ二帔ト爲シ。數チシテ之ヲ負フテ至ラシム。某狂喜シテ帔ヲ發ケバ。棉衣二十。皆皂色ニシテ。橋本氏ノ章ナリ。某愕然トシテ措ク所ヲ失シテ曰ク。除夜ノ紛擾ナル。誤テ他物ヲ輸セシニ非ル無キヲ得ンヤト。善兵衛色ヲ止フシテ曰ク。咄汝ガ父死シテ。一作善無ク。色ニ荒カ。産ヲ破リ。憂チ母氏ニ貽ス。何ハ。因テ各簿ヲ懷ヨリ出シ。之ニ示シテ曰ク。是レ皆ナ。故舊

家奴ニ係ル貧困支へば、凍粟歲ヲ守ル者ナリ。吾爲メニ春
服ヲ製ス。速カニ人ヲ差ハシテ分給セヨ。且ツ一故ニ衣ス
ルハ、二十人ニ衣スルニ孰與レト。某茫然トシテ自失ス。復
々奈何凡スベキ無ク。遂ニ其言ノ如クス。明且陸續來テ、年
ヲ拜シ、恩ヲ謝シ、家章、鸚鵡、鸞列シテ、懽聲、至ニ溢レ、祥氣、瑞
光、意料ノ表ニ出ヅ。而シテ、妓ハ則チ怨ミヲ鳴シテ之ト絶
ツ。某始メテ感悟スル所アリ。遂ニ志ヲ改メテ、修教シ、家
稍々故ニ復セリトイフ。

櫻所子曰ク、世ノ滯靡ニ趨クヤ、情波欲濤ニ浮沈スル所ノ
爲子治郎、其人ニ乏シトセズ、而シテ親朋ノ理義以テ之
折キ、温言以テ之ヲ諭トスアリト雖凡、其迷雲痼霧ヲシテ
解散セシムルニ足ラザル。恰カモ書醫ガ皮膚ヲ刺衛スル

ノ藥劑ヲ投ジテ、骨髓ニ滲漸スルノ病痼ヲ療セントスル
ガ如シ。善兵衛ノ之ニ處スル、人ノ意表ニ出テ、善ク敗ヲ轉
ジテ功ト爲シ、昏ヲ回シテ明ト爲サシム。猶ホ良醫ノ一劑
ヲ投ジテ、頓ニ回生起死ノ効ヲ奏シ、患者ヲシテ、股体清穩、
神氣爽快ナラシムルガゴトシ。願フニ此巧妙ノ手段ヲ以
テ、移シテ大事ニ施サバ、假令盤錯處ニ難キニ逢フト雖凡、
勢ヒニ因テ伎倆ヲ逞フスル。猶ホ庖丁ノ牛ヲ解クガゴト
ク、綽然トシテ餘地アルヲ得ン。莫ゾ膏ニ妓ニ與フル者ヲ
轉ジテ、家奴ニ與フルノ嫌除ニ止ランヤ。

第二十五

釋月仙貧鄙ノ請リヲ避ケザリシ事

釋月仙ハ伊勢ノ僧ナリ。幼ニシテ、剃度ス。性直ヲ好シ。遂ニ
其妙ヲ極ム。名海内ニ噪グ。然カモ、甚ダ潤筆ハ資ヲ得ルヲ

欲ス、畫ヲ請フ者アル毎ニ、必ズ先ヅ價ヲ論ジテ、後チ筆ヲ
 起スニ至ル。是ニ因テ、世其貪鄙ヲ毀ル。月仙醜ミザルナリ、
 一名妓アリ、其畫ヲ善クスルヲ聞キ、奴ヲシテ來テ之ヲ請
 ハシム。月仙先ヅ價ヲ論ズ、奴返リ告グ。妓曰ク、價ハ宜ク其
 欲スル所ニ從フ可キナリト。畫成ル。月仙親ラ携ハ來ル。妓
 嫖客アルニ會ス。宴方ニ盛ナリ、乃チ月仙ヲ引キ、席末ニ就
 カシメ、金若干ヲ攫ミ、席上ニ擲チ以テ之ヲ與ヘテ曰ク、金
 以テ畫ヲ買フナリ、噫、賣畫僧齒スルニ足ラズ、買フ所ノ幅、
 掲グルニ足ラズト。是ニ於テ衣裳ヲ脱シ進ム。獨人中ニ
 立チ、自ラ其禪ヲ解キ、幅ニ代テ壁上ニ掲、因テ笑テ曰ク、
 雅軸ヲ獲ズト雖、亦佳禪ヲ獲タリト。一坐之ガ爲メニ目
 ヲ掩フ。月仙熱視シテ、愧ル色無シ。後チ益其價ヲ貴フシ、其

獲ル所ノ金ヲ稱貸シ、遂ニ以テ巨富ヲ致スト云フ。一夕雲
 衲僧大雅來リ宿シテ曰ク、水雲ヲ心ト爲シ、樹石ヲ棲ト爲
 ス。豈ニ鼻祖ノ教ニ非スヤ。假令寺ヲ出デ、山ニ入ル、能
 ハザルニ書畫利ヲ繼シ、以テ富ヲ致ス。何ゾ銅身ヲ嗜ムノ
 甚キヤ。是豈ニ特リ和尚一人ノ汚辱ノミナランヤ。請フ
 滿レテ改メヲト。月仙曰ク、洵トニ然リ。抑モ予、畫ニ於ケ
 ル、固ヨリ巴ム可クシテ、巴マザル者、蓋シ以テ、ルナリ。予
 孤ニシテ貧シ、戚族拉シテ、予ヲ茲寺ニ投ス。師之ヲ憫ミ、卵
 ニシテ翼ス。師ニシテ父母ノ思ヲ兼ヌ。寂スルニ臨ミ、命シ
 テ以テ寺主ト爲ス。水雲ヲ心ト爲シ、樹石ヲ棲ト爲ス。能
 ハザルナリ。往年ハ凶荒、茲ハ土特ニ甚シ。餓草相枕シ、道邊
 相望ス。リ。因テ意フニ、書畫ハ玩物ナリ、而シテ之ヲ愛スル

必。貧。者。一。非。不。今。ヨリ。以。往。忍。辱。シ。テ。揮。灑。シ。其。潤。筆。ヲ。蓄。
 積。ム。ニ。歳。月。ヲ。以。テ。セ。バ。庶。幾。ク。ハ。以。テ。必。ク。凍。餓。ヲ。期。ハ。
 ス。ニ。足。ラ。ン。カ。幸。ニ。シ。テ。請。フ。者。陸。續。ト。シ。テ。門。ニ。及。ブ。之。ヲ。
 人。ニ。託。シ。積。ム。テ。五。百。金。ヲ。得。乃。チ。山。田。奉。行。ニ。屬。シ。以。テ。數。
 村。ノ。凶。荒。ニ。充。ツ。則。チ。宜。ク。已。ム。ベ。シ。然。レ。氏。又。謂。ラ。ク。逢。山。
 險。隘。ニ。シ。テ。來。テ。大。廟。ヲ。拜。ス。ル。者。之。ヲ。病。ム。先。師。恆。ニ。以。
 テ。憂。シ。恐。人。乃。チ。爲。人。ニ。揮。灑。シ。テ。三。百。餘。金。ヲ。得。タリ。因。テ。
 功。ヲ。興。シ。險。以。テ。夷。カ。シ。隘。以。テ。豁。カ。シ。テ。行。旅。之。ヲ。喜。ビ。
 謳。歌。シ。テ。過。ク。則。チ。將。サ。ニ。筆。硯。ヲ。燒。カ。ン。ト。人。此。ヨリ。先。キ。
 先。師。將。サ。ニ。堂。宇。ヲ。修。繕。シ。シ。果。サ。ス。シ。テ。遊。ク。今。ヤ。堂。
 宇。頗。ル。傾。入。杜。松。益。濼。ス。因。テ。又。將。サ。ニ。其。志。ヲ。繼。ガ。ン。ト。人。
 予。已。ニ。老。タリ。成。否。必。シ。難。シ。然。リ。ト。雖。凡。今。此。從。事。ス。軀。

猶。ホ。頑。健。ニ。シ。ハ。財。モ。亦。稍。聚。ル。要。ス。ル。ニ。三。年。ヲ。出。テ。シ。
 テ。將。サ。ニ。志。ヲ。償。ハ。ン。ト。ス。此。レ。余。ノ。銅。臭。ヲ。嗅。テ。厭。ハ。ザル。
 所。以。ナリ。此。一。事。ヲ。了。ス。レ。バ。將。サ。ニ。心。ヲ。洗。ヒ。真。ノ。修。シ。定。
 後。ノ。真。諦。ニ。歸。ヒ。シ。ト。ス。爾。時。財。ハ。即。チ。乾。屎。楸。ノ。ミ。適。ス。レ。
 バ。則。チ。揮。ス。滴。セ。ザレ。バ。則。チ。已。ム。銅。臭。ニ。何。ア。ラ。ン。ヤ。ト。大。
 雅。大。ニ。感。ジ。拜。シ。テ。去。ル。

櫻。所。子。曰。ク。凶。荒。ニ。備。ヘ。道。途。ヲ。修。夷。ス。ル。豈。ニ。濟。世。ノ。美。舉。
 ニ。非。ズ。ヤ。志。ヲ。繼。テ。堂。宇。ヲ。修。補。ス。ル。ハ。師。長。ノ。恩。ニ。報。ズ。ル。
 ナリ。而。シ。テ。此。濟。世。繼。志。ノ。爲。メ。ニ。恐。辱。含。垢。以。テ。黽。勉。拮。据。
 能。ク。其。志。願。ヲ。満。足。ス。月。仙。ノ。事。洵。ニ。多。ト。ス。ル。ニ。足。ル。レ。ト。
 アリ。世。ノ。僧。徒。ノ。身。ニ。錦。繡。紫。紅。ノ。衣。ヲ。纏。ヒ。口。ニ。因。縁。因。果。
 ヲ。説。キ。之。ヲ。望。メ。バ。儼。然。ト。シ。テ。活。佛。ノ。如。ク。ナル。モ。其。心。裡。

ヲ察スレバ營名貪利至ラザル所無ク、愛憎嫉妬、修羅ノ鬪
諍ヲ事トスルニ非レバ、則チ有財餓鬼タリ、常見ノ外道ノ
部類ニ非レバ、則チ斷見ノ魔王ノ眷屬タル輩ニ比スレバ、
月仙豈ニ日ヲ同フシテ語ル可キモノナランヤ、

第二十六 春夫八藏ガ達ナル事

春夫八藏ハ信濃國某村ノ農夫ナリ、信濃ノ俗タル、毎歲秋
冬ノ交壯者相誘シテ江戸ニ來リ、自ラ鬻キテ奴トナリ、春
來南畝ニ事アルニ及ンデ去ル、而シテ都門ノ繁華ニ慣レ、
顧戀シテ還ラズ遂ニ都籍ニ入ル者、往々シラ在リ、八藏
始、郷人十餘輩ト俱ニ來リ、而シテ亦留ル者四人、八藏其
一ナリ、俱ニ連房ヲ淺草福富坊ニ賃シテ居ル、履齒ヲ補フ

者大車ヲ挽ク者等各自業ヲ異ニス、八藏ハ則チ人ニ役キ

セラレテ米ヲ舂ク、孜孜砵々トシテ、各其勤ノニ服ス、而シ
テ或ハ酒ヲ飲ミ、或ハ賭博シ、或ハ花柳ニ遊蕩ス、其嗜好ヲ
一ニヒズ、隨テ獲レバ隨テ費シ、半文錢ヲ宿メズ、八藏獨リ、
衣食ヲ損ジ、嗜欲ヲ忍ビ、意ヲ一ラニシテ、貯蓄ス、錢ヲ積ム、
銀ニ換エ、銀ヲ化シテ、金ト爲シ、日ニ積ミ、月ニ化シテ、噴
頗ル富ム、暇アレバ、則チ素ヨリ出シテ、青眼欣如摩挲シテ、
以テ樂ム、儕輩其所爲ヲ笑フ、一日之ニ謂テ曰ク、夫レ人ノ
筋骸ヲ勞シ、能ク耐エ難キニ耐エ、忍ビ難キニ忍ブ者、豈他
アラシヤ、財ヲ獲テ以テ嗜好ヲ遂ゲントス、養生延年ノ道
乃チ爾リ、然ラズンバ、金ヲ積ムデ星斗ヲ撐フルモ、亦何ノ
用ユル所ゾ、日ノ獲ル所夜ハ則チ散ジ盡シテ、日出デ、カ
作シ、錢ヲ攫ムデ還ル、身アリ、錢アリ、樂ム、以テ歳ヲ送ル

ハ此レ太平雨露ノ恩吾儕ノ郷ヲ離レテ都ニ宅スル所以
ナルノミ今汝ガハ貯蓄シテ用申ズ知ラス何ノ意ゾヤ蓋
ソ速カニ故郷ニ歸ラザルヤトハ臧笑テ答ヘズ然レ氏竟
ニ其爲ス所ヲ改メス儕輩竊カニ指斥シテ曰ク諺ニ所謂
疾ヲ醫スル藥無シトハハノ謂ナリト既ニシテハ臧疾ニ
寢ネ荏苒月ヲ踰エテ起色無シ一日三人謂テ曰ク同郷相
長ジ今同爨共食ス情兄弟ニ同ジ今疾日ニ漸ム吾儕甚々
之ヲ危ブム若シ不幸ニシテ起タズンバ其貯フル所ノ金
ハ如何ガ處措セン請フ今ニ及ムテ之ヲ言ハハ臧笑テ曰
ク人各嗜好スル所アリ此ヲ以テ心身ヲ勞苦ス用ヒテ以
テ其欲スル所ヲ遂グルニ及ベバ則チ洒然トシテ以テ樂
ミ愉然トシテ自適ス其跡ハ同ジガラザルモ其樂ミト爲

スハ則チ一ナリ要スルニ各其樂ミヲ樂ムノミ予ヤ積ム
テ用申ズ玩弄以テ自ラ娛ム是レ我が無上ノ樂ミノミ其
然ル所以ハ則チ吾ト雖凡知ル能ハズ今素中ノ物ノ如キ
ハ吾ガ平生樂ミタル所ノ微ナリ又何ゾ顧戀セシヤ盤ニ
謝シ骸ヲ埋ムルノ餘一ニ之ヲ汝ガ曹ノ處分ニ委ヌ以
ツテ飲ミ以テ賭シ以テ妓ヲ買ヒ請フ馬ヲ用牛以テ其樂
ミヲ樂メヨヤト是ニ於テ儕輩愕然トシテ曰ク達斯ハ如
キハハ則チ凡人ニ非ズ聖人ナリト幾クモ無クシテ歿ス
一二其言ノ如クセリト云フ

櫻所子曰ク嗚呼達ナル哉ハ藏ヤ凡ソ挽夫舂夫ノ人ニ雇
役セラル者概テ隨テ得レバ則チ隨テ散ズ人煙稠密ノ
都會ハ貧民モ亦夥多ナル者他無シ裏店橫坊皆斯輩ノ巢

密々ラサル無キヲ以テナリ。然レバ則チ。都會ノ繁華トノ
六七ハ。斯輩ヲ以テ組織セラル、トイフモ可ナリ。故ニ米
價ノ沸騰、疾疫ノ流行アル、其飢渴ヲ訴フル者ノ多キ、亦都
會ヲ以テ最第一トス。即チ得ルニ隨テ散ジ、亦一錢ヲ貯蓄
スルコヲ知ラサルヲ以テナリ。聞ク嘗テ都下ノ職工ハ、經
宵ノ金ヲ用キサルヲ以テ、江戸兒ノ氣象ヲ誇レリト。然ル
ニハ藏眼ニ一丁無ク、亦理ヲ知り道ヲ學ブモノニ非ズ
テ、善ク浮躁ノ風習ニ薰染セラレズ。儕輩ノ訾笑ヲ顧ミズ、
殆ンド下愚ノ移ラサル者ニ似タリ、而シテ其平素貯蓄ス
ル所アルヲ以テ、鑿ニ謝シ賤ヲ埋ムノ費ヲ辨ズルニ餘リ
アルノミナラズ、其餘澤以テ儕輩ニ及ホスニ足ル、且ツ夫
レ、自ラ起タサルヲ知ルヤ、平生變玩スルニモ似ズ、毫モ執

着ノ念無シ、恰ヒ岡野左内ト其臭味ノ同ク、亦奇ナラ
ズヤ、故也。一語、其胸襟ノ洒々落落タル、左内ガ舊券ヲ攬
ト、モニ、焚如ニ付セシニ讓ラズ、視ヨ、得ルニ隨テ散ジ以
テ口腹耳目ノ嗜好ヲ遂ゲテ、儲フルヲ知ラズ、疾病事故ア
ルニ際シ、醫藥ノ求ムベキ無ク、埋葬吊祭ノ費無キハ貧民
ノ常態ニノ、日夜逐々トメ利ヲ趨ヒ、鉢積寸累シ半錢以テ
人ニ貸サス、一毛以テ人ヲ利セズ、口ニ肉ヒズ、體ニ縮セズ、
冥然トメ貸財ヲ守リ、以テ生涯ヲ送リシ、續ヲ屬スルニ至
シ、迄顧惜眷戀メ措カサル者ハ、守錢奴ノ情況ナリ、ハ藏ヲ
シテ此貧者ノ散ジテ蓄フルヲ知ラザルト、守錢奴ノ積ム
テ用ユルコヲ解セザルトノ情狀ヲ評セシメバ、必ず曰ハ
シ、痴ヲ鑿スル、藥無シト、噫。

第二十七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事

狂生某トイフ者アリ。何許ノ人ナルヲ知ラズ。或ハ曰フ陸奥ノ人ナリト。幼ニシテ父母ヲ喪ナヒ。依托スルニ門無ク。東西流離スル十數年。遍ネク大都通邑ヲ遍歷シ。餓ユレバ則チ人家ニ沿テ酒食ヲ乞フ。醉ヘバ則チ蹠跣歌呼ス。人呼テ狂生トナス。因テ自ラ以テ名トス。年二十江戸ニ入テ昌平學ノ傍ニ露卧シ。日ニ絃誦ノ聲ヲ聽キ。欣然トシテ神會スルノ色アリ。一旦翻然トシテ人ニ語テ曰ク。我モ亦人ナリ。四肢五官一モ具ハラザルヲ無シ。天ノ我ニ與フルヲ渥キ是ク如シ。我ハ則チ狂生ヲ以テ終ノル。可ナランヤト。乃チ巨室大賈ニ十謁シ。薪水ヲ操ルヲ請フ。人ミテ狂生ノ狂ヲ恐レ。敢テ許リズ。生嘆ジテ曰ク。都人七八皆盲聾ノミト。去

テ常野・間ニ彷徨ス。野刈宇都宮ニ。豪農田某ナル者アリ。除タニ會ス。主翁出デ、浦ヲ督ス。忽チ一人ノ蓬頭藍面。瘦羸骨立セルモノ。其後ヘニ從フ。大ニ駭キ以テ窮鬼トス。此シテ曰ク。去レ其人一歎一笑シテ曰ク。嗚呼。我瘁ム。宜ナルカナ翁ノ目スルニ窮鬼ヲ以テスル。翁モ亦禍福轉換ノ機ヲ知ルカ。窮極テ富生ジ。富極テ窮來ル。然ルハ翁ノ富未ダ持ムベカラズシテ。我ノ窮悲ムベキニ非ズ。天下固ヨリ其服ヲ繼躩ニシテ。其心ヲ錦繡ニシ。形チノ瘦セテ智ノ肥タル者アリ。其皮ヲ豹ニシ。其質ヲ羊ニシ。財ニ富ムテオニ貧キ者アリ。今翁ノ眼。表裏ヲ辨ゼズ。人鬼ヲ判ゼズ。惑ヘル甚キ者ト謂フベシ。翁モ亦聾盲ノ徒ナル哉ト。マサニ浩歌シテ去ラントス。翁其言ヲ奇トシ。引テ與モニ歸ル。其門

ニ及ビ翁大呼シテ曰ク我福神ヲ得タリト家人皆出迎
レバ則チ乞食狂生ナリ蓋シ生屢米錢ヲ翁ノ門ニ乞フ而
シテ翁ハ毎ニ深奥ニ在テ知ルニ及バザリシナリ家人交
翁ヲ尤ガム翁可カスシテ曰ク彼レハ佯狂者ナリ豈ニ真
ニ乞食ノ徒ナランヤ苟モ我が用ヲ爲サバ以テ我家ノ福
ナラズヤト是ヨリ厚ク衣食ヲ給シ之ヲシテ諸雜事ヲ理
メシム生日夜拮据シテ精敏人ニ過グ事遲滯無ク家政整
肅隣里相告ケテ曰ク田氏佳僕ヲ得タリト是時ニ當リ
幕政衰頹シ紙網弛解ス内憂外患競ヒ起ル之ニ加フルニ
年穀實ラズ物價昂騰シ飢餓ニ苦ムノ民所在ニ盜ヲ爲シ
四境騷然タリ生亂形已ニ成ルヲ知リ一日主翁ニ説テ曰
ク淵亂ハ機朝タヲ測ラス而シテ主家素封ヲ以テ聞ユ宜

ク連々時膏ヲ散ジテ恩義ヲ郷人ニ結ブベキト夫レ
一鬻ノ肉莠シテ空庭ニ在ル貪蠅蟻相聚テ之ヲ争フ
ハ糜爛セリルヲ無シ苟モ主家ニシテ孤立セバ猶ホ鬻肉
ノ委テ庭ニ在ルカガトシ郷人ノ貪蠅蟻タラサルヲ
欲スレ氏得ベケンヤト主翁頗ル悟ル乃チ貸券數百金千
圓穀千斛ヲ散ジ以テ窮孤ヲ賑恤ス幾クモ無ク水戸ノ藤
田黨尊攘ヲ唱ヒ兵ヲ常野ノ間ニ起ス勢ヒ風雨ノ如ク蒙
農大賈多ク劫掠セラル而シテ田氏獨リ德望ヲ以テ免カ
ル翁大ニ喜ムテ曰ク狂生ハ果シテ是レ我カ家ノ福神ナ
リト
櫻所子曰ク今ノ所謂貨殖家多クハ刻薄ニシテ重毛ノ末
利ヲ争フヲ知ルト雖氏慈善ノ何事タルヲ知ラズ其貧者

ヲ視ル。ト犬羊ノ如クス動モスレバ。輒テ曰ク。彼レガ愚ヲ
ル。ト斯ノ如シ。故ニ貧ナリト。貧者豈ニ盡ク愚ナランヤ。種
種ノ困難ヲ經種々ノ不幸ニ罹リ。才智アリ徳操アル者ニ
シテ。途窮ヲ哭スルアル。古來其例多シ。而シテ貧人ノ富家
ニ視ル。仇敵ノ如クスル者モ亦其心一様。妬ヲ懷クナキ
ニ非ズト雖。氏至竟富家ノ恩ヲ施サズシテ。威ヲ用ルルナ
先キトシ。出納ニ吝ニシテ。兼併ニ急ナルニ由ルナリ。故ニ
亡頼ノ徒。貧民ヲ嫉シテ。竹槍席旗ノ暴舉ヲ企ツルカ如キ
事アルニ際セバ。則チ富農大估。概テ之ヲ魚肉トナルヲ免
ガレズ。況ヤ兵亂ニ於テヲヤ。若シ富者ニシテ其郷閭ノ貧
人ヲ待ツ。親戚子弟ノ如クシ。憐一恩惠ヲ施スア。フハ貧人
亦頑石木偶ニ非ハス。何ゾ應分ニ報酬スル。トヲ思ハザ

ランヤ。

櫻所子曾テ之ヲ占老ニ問ク。昔シ某地ニ一豪農アリ。素封
ノ富列郡ニ比無シ。而シテ其倉庫一モ鎖鑰無ク。夜戸ヲ扃
サズ。然ル所以ハ。接近數十ノ村落。一人トシテ其恩惠ニ浴
セサル者無キヲ以テ。之ヲ萬一二報スルカ爲メニ。村民相
約シ。風雨寒暑ヲ論ビズ。毎夜十數人來テ宿衛シ。家ノ四邊
ヲ守護ス。是固ヨリ村民自ラ爲ス所ニシテ。倚托ヒラレタ
ルニ非ルヲ以テ。暮ニ來テ晨タニ去リ。敢テ其家人ヲシテ
知ラシメス。此ノ如クニシテ。渝ハラザル者數世ニ及ブ。是
倉庫及ビ筐筥等。スベテ鎖鑰スルヲ須斗ザル所以ナリト。
其恩ヲ閭里ニ布クハ。深キ想ヲ可キナリ。然ルニ之ニ及ス
ルノ一語アリ。昔シ北陸ニ一豪農アリ。村民數百人連盟シ。

竹槍隊ヲ成シテ其家ヲ圍ミ、吶喊火ヲ放チ、驚走狼狽スル所ノ主翁及ビ家族七人ヲ捕ヒ、叢槍亂刺シテ悉ク之ヲ殺シ、踊躍シテ去ル。官即チ其罪魁十人ヲ逮捕シテ、其間ニ磔スト。夫レ衆ヲ煽動シテ人ヲ殺シ家ヲ燬ク其首魁タル者、固ヨリ嚴刑ヲ免ガル可カラザルヲ知ラン、而シテ斷守此慘虐ノ事ヲ爲シ、各自ノ生命ヲ愛シマス、亦其父母妻子ノ悲痛ヲ顧ミザル者、豈ニ故無シトセシヤ。必ヤ平素ハ所爲、富有ノカヲ以テ貧人ヲ待ツハ、太ダ刻薄ナリシニ、激スル所アルニ由ルナル可シ。此ノ行跡ヲ以テ、前ノ事實ト對照セバ、猶ホ越歴氣ノ消積ニ極ノ如シ。仁暴ノ變化シテ、殃福處ヲ異ニスルヲ視ルニ足レリト。此言固ヨリ傳聞シテ、月底ニ存スル所ヲ記スルノミ、其年時、姓氏ト、如キハ、既

ニ遺忘セリ。然ルレ今田某ガ徳望ヲ以テ、藤田憲ノ切符ヲ免カレ、果シテ狂生ノ福神タリシノノ驗知ヒシノ條ヲ録スルニ及ビ、讀者ヲシテ濫公ガ陰徳ヲ冥々ノ裡ニ積ムヲ以テ、福祉ヲ子孫ニ貽スノ長策トセシ言ノ妄ナラザルヲ感發セシムルノ一端ニ供センガ爲メ、茲ニ附記ス。知ラズ、世ノ富者、果シテ首肯スルヤ否ヤ。

第二十八 新見屋新右衛門少女ヲ救ヒ禍ヲ免ガレン事

新見屋新右衛門ハ、野刈守都宮ノ妹、讀ナリ。未ダ其姓ヲ詳カニセズ。億料奇中、大ニ殷富ヲ致ス。已ニ老タリ、親戚之ヲ規シテ曰ク、今乏シキ所ノ者ハ財ニ非ズ。智ヲ役スルニ度ニ過グルハ、攝生ノ道ニ非ズ。請フ意ヲ商榷ニ絶テ、優遊以

子裁ヲ卒ハヨト。新右衛門曰ク。大ニ善シ。但、今秋將廿二大
 藏利アラントス。見ル所決シテ錯誤セズ。此一着ヲ了シテ
 後子、局ヲ斂メテ間ニ就カント。乃チ江戶ニ抵リ事ニ從フ。
 果シテ數百金ヲ攫ス。笑テ曰ク。吾ハヨリ老ニ至ルマテ、死
 死トシテ賞ニ服ス。未ダ嘗テ故意興ヲ遣ラズ。吾將此一畢
 世ノ愉快ヲ極メ。素ヲ垂レテ還ラントス。乃チ書ヲ報ジ。親
 如故舊ヲ招テ、殺シ以テ花ヲ賞シ月ヲ弄シ。演戲ヲ觀。北里
 遊人、往ク所縵肉涌起シ。銅臭人ヲ醉ハシム。日永代橋
 過久時ニ晚間。五色辨ゼズ。人アリ將サニ踊テ水ニ投テ
 一トスル者ノ如シ。電行シテ之ヲ擊ル。以女ナリ。將リニ脱
 投セントス。緊抱シテ挾タズ曰ク。何ノ故ゾ。泣テ曰ク。里死
 ヒサルヲ得ス。願クハ遺放セヨト。之ヲ諭シテ曰ク。

之。膝猶亦相謀ル。ニ足ルト予豈膝ニ勝ラスヤ。蓋ソ其實ヲ
 語ラザルト乃チ謝シテ曰ク。妾幼ニシテ父ヲ喪ヒ。家道稍
 落ツ。母ハ親家ニ寄食シ。妾身ヲ鬻ク。五年。某家ノ婢ト爲
 ル。味。婢註翁ノ命ヲ奉シ。金三十兩ヲ齎ラシ。諸レヲ某氏ニ
 致ス。途ニシテ之ヲ失フ。索搜スレモ得ズ。贖ハシカ資無シ。
 實ヲ告ケンカ。家貧シケレバ必ス曰ハン。粗。膽。虚。捏。シテ此
 經事ヲ作スト。身死スレハ則チ白カナリ。死ヲ決スル所以
 ナリ。但、明年期滿ツ。阿母之ヲ待ツ。日。年ノ如シ。妾ニシテ死
 ス。阿母ノ駭悲如何ト爲ルヤ。源。雨。ノ。ゴ。ト。ク。下。タル。新。右
 衛門。多。方。之。ヲ。諭。シ。曰。ク。三。十。金。生。ヲ。買。フ。ハ。兼。シ。吾。將。リ。ニ
 之。ヲ。買。ハ。ン。ト。ス。ト。興。フル。ニ。金。ヲ。以。テ。シ。且。ソ。教。ヘ。テ。曰。ク。
 速。カ。ニ。還。リ。事。ニ。託。シ。テ。邊。緩。ヲ。謝。セ。ヨ。ト。女。感。淚。固。辭。ス。強

テ之ヲ與フ。姓名里居ヲ問ハバ、笑テ曰ク、余ハ田舎翁ナリト告ケスシテ去ル。後チ數年、親家年火三輩ヲ携ヘテ、八幡祀事ヲ深川ニ觀ル。山車巧ヲ爭ヒ歌舞新ヲ競ヒ、觀ル者都鄙ヲ傾ク。永代橋ニ至ルニ及ビ、觀者填溢シ、肩相摩シ踵相躡ク。汝地ニ着カズシテ、自ラ進退ヲ爲ス、滿街狂ノコトシ、時ニ女アリ、來テ袖ヲ牽テ語ル。新右衛門曰ク、似タル者ヲ誤認セシニ非ルカト肘ヲ奮テ顧ミズ。女緊抱シテ、汝タズ、新右衛門大ニ怒リ、喝シ且ツ曰ク、何ゾ不敬ト狀ナレ。年火輩其レ我ヲ何トカ云ハント。時方ニ喧聒、言語達ヒズ、唯、吻動キ色變スルヲ視ルノミ。女カヲ極メテ牽引ス、遂ニ年火ト相失シ。橋側ノ茶肆ニ入ル。女謝シテ曰ク、君豈ニ我が恩人ニ非ズヤ。某年月日、此橋上女ヲ救ヒシ事ヲ記スルヤ否

ヤト新右衛門頭ヲ傾ケ、蹙眉シテ曰ク、今ニ五年、因テ往事ヲ叙シ曰ク、妾還リ實ヲ以テ主翁ニ復シ、金ヲ奉シテ之ヲ還ハス。主翁吝嗇之、久クシテ曰ク、塗人尚ホ然リ、吾何ゾ其金ヲ受クル。忍ビ、ンバ、然リト雖、其末タ之ヲ返スニ由シアラス。吾將サニ權ニ藏メ以テ俟ツアラントスト。期滿ルニ及ビ、其金ヲ把テ妾ニ賜ベク曰ク、用中、以テ母子生活ハ資ト爲シ、永ク其禍患ヲ存セヨト。推辭スレド允サズ。乃チ拜受シテ歸リ、其母ニ告ゲ、相對シテ泣ク。當時自ラ誓テ曰ク、此恩ヲ忽略スルハ人ニ非ズ。昏黑間眸ヲ凝ラシテ諦視シ、粗風貌年齒ヲ認メ、之ヲ心肝ニ刻シ、常ニ神佛ヲ祈リ曰ク、一タビ其人ヲ觀、口チ此恩ヲ謝スルヲ得ン。何奇ノ人ナルヲ知ラズト雖、其安ソゾ知ラン。親故ノ此間ニ在

ルヲツテ、重テ橋上ヲ經過スル無キヲ、因テ阿母ト與
 モニ謀リ、賈テ所ノ金ヲ以テ、茶肆ヲ此ニ買ヒ、茶ヲ賣リ、以
 テ活ク、且ツ日夕注目シテ之ヲ求ム、今ニシテ果シテ之ヲ
 觀ルヲ得タリ、何ノ喜ビカ爲レニ尚ヘン、且ツ泣キ且ツ語
 ル言未タ畢ハ、フザルニ橋身断裂シ、相推シテ溺ル、須臾ニ
 シテ、浮屍川ヲ掩フ路ハ、テ濟ルハ、シ、携フル所ハ、三人モ亦
 溺中ニ在リ、新右衛門、獨リ免ガル、ハ、ヲ得タリト、則チ文政
 四年丁卯、秋八月十五日ノ事ナリ、
 櫻所子曰ク、白居易ノ詩ニ、貧始覺錢盡ノ句アリ、世上一擲
 萬金、情ヲ合ムテ片言無キノ豪富アリト雖モ、亦僅カニ數
 十金若ク、數金ノ爲メニ、父母凍餒シ、兄弟妻孥離散シ、身
 容、一、地無ク、一尺ノ布、以テ其頸ヲ繫シ、數寸ノ菜刀、以

テ其胸ヲ割ラ死スルニ至ルアリ、誰カ管ニ之カ爲メニ惻
 然タラザランヤ、然リ而シテ世ノ浪費ヲ爲ス者、千金ヲ抛
 ケ、而シテ券ヲ斗鐘ニ積ク能ハサル、滔々皆是ナリ、新右衛
 門卒然トシテ三十金ヲ路人ノ爲メニ抛テ、以テ其死ヲ拯
 フ、真ニ凶女ノ爲メニハ、神靈帝ナラサルノ恩ヲ施コシ、而
 シテ德ヲ吞ムデ口セザル、豈惻隱ノ至ルハ者ニ非ズヤ、亦
 賴テ以テ漂溺ヲ免ガル、知ル可シ天ノ報應、昭然トシテ分
 明ナルヲ、彼主翁ナル者、亦尊誼ニ感奮興起シ、金ヲ推シ
 テ之ニ與フル者、及ビ女ノ日夜感刻、用意周到、久フシテ衰
 ハガル者、皆頭ヲ醒シ、懦ヲ立ツルニ足ル、抑モ米賈ハ、日ニ
 贏輸ヲ争フ、賭ト殊ナル無キ者ナリ、雖モ新右衛門ガ女
 ノ生命ヲ買フノ餘カアル者他無シ、其少ヨリ老ニ至ルマ

テ。既トシテ賈ニ服シ。故意興ヲ遣ルヲ敢テセザルニ
由ル。若シ夫レ其勤メニ倦メバ。則チ故意興ヲ遣ルヲ常ト
スル輩。囊底空罄シ。親姻故舊ノ急ヲモ救フ能ハス。何ゾ惠
ヲ路人ニ及ボスノ餘裕アラシヤ。嗚呼。貨財ノ用タル。以テ
人ヲ活スベク。以テ人ヲ殺スベク。以テ財貨山積スルノ富
ヲ為スベク。以テ勇士猛卒ヲ使役スルノ強國タル可シ。而
シテ其靈ニシテ神ナル作用ハ。赤貧者ニシテ。後チ明驗シ
得ルモノトス。此神ニシテ靈ナル貨財ヲ以テ。嗜欲ノ為メ
ニ徒消スルヲ知テ。產業ヲ興シ。學藝ヲ研シ。窮乏ヲ賑救ス
ルノ用ニ供シテ。功益アルヲ知ラサル者。恰カモ龍泉太阿
ヲ以テ菜根ヲ截ルガ如シ。思ハズニハアル可カラザルト

第廿九 山中某賑恤ヲ以テ老境ヲ慰メタル事

下總ノ人山中某ハ。貧賤ノ家ニ生レ。辛甚。勤勉シテ家ヲ興
ス。初メ四五圓ノ資本ニ過ギズ。而シテ齡耳順ニ至リ。トス
ル。至テ家産益昌ニシテ。積累巨萬ニ至ル。其人ニ貸與ス
ル者。幾萬金ナルヲ知ラズ。利子歲入亦數千金某。人ニ語テ
曰ク。資産既ニ足ル。又何ゾ殷殖ヲ求メシヤ。心ヲ賑窮ニ存
シ。以テ老境ノ娛樂ト為ス可キノミト。
櫻所子曰ク世ノ暴力ニ富ム者ヲ視ルニ。初メ以爲ク千金
ヲ獲レバ則チ足ルト。既ニ千金ヲ獲レバ。則チ萬金ヲ期シ
萬ニ至レバ。則チ億ヲ期ス。窮極ノ欲。底止スル所ヲ知ラズ。
念ヲ累サネ慮リヲ積ミ。一身恆ニ利ノ驅役スル所トナリ。
安キ時アルヲ無シ。何ゾ人ノ窮乏ヲ賑恤スルニ違アラシ

ヤ。而シテ俄然トシテ産ヲ傾クレバ、憂心快鬱トシテ解ク
ル時無ク、然ラザレバ死シテ蕩子ノ為ノ一棄散セラレン
ノシ、是レ猶ホ富ト雖、氏貧シキカ如シ、自ラ足ルヲ知
テ心ヲ賑窮ニ存スル、山中氏ノ如キ、富有ニ素シテ富有ヲ
行フ者ト謂フ可キノリ。

第三十 菊池孝兵衛儉朴ニシテ窮乏ヲ憫ミシ事

菊池孝兵衛、野刈宇都宮ノ商賈ナリ、家號ヲ佐野ト曰ス。
資財饒裕ニシテ、支店ヲ各處ニ置ク。孝兵衛人トナリ、蒲酒、
吟域ヲ設ケ、賓客堂ニ構ツ、詩酒談笑、毫モ厭色無シ、然レ
氏自ラ奉スル儉朴ニシテ、其常用ノ饌、貝、漆器ノ粗糲
ナル者タリ、其無用ニ奢ラザルハ、率不此類ナリ、嘉永癸丑
已後、國家多故、幕府政ヲ失ス、孝兵衛以為ク世變測ルベカ

ラズ、亘ク田圃ヲ闢キ、桑麻ヲ植エ、以テ安身ノ地ト為スベ
ク、野刈川ノ沿岸ナル岡本、糸島、内村、芥蕪ノ地
ヲ相テ、草萊ヲ披キ、溝洫ヲ疏シ、窮民ノ移シ、糧食及ビ農具
ヲ支給シ、業ヲ安政己卯ニ起シ、エヲ又久辛酉ニ竣ハル、良
田ヲ得ル二百八十町、民家ヲ得ル五十四戸、人ヲ得ル三百
三十七口、號シテ菊池村ト曰フ、孝兵衛マタ慷慨國ヲ憂ヒ、
數千金ヲ費シテ、四方有志ノ士ニ給、遂ニ大橋順藏等ト
獄ニ下ダルニ及ベリト、孝兵衛天資忠厚ニシテ、窮乏ヲ憫
ム、飢渴ノ飲食ニ吝ケルカ如クス、其宇都宮ニ在ル夜、衆
シ、僕ヲ率テ、潛カニ貧戸ヲ窺ヒ、金ヲ投ジテ去ル、人其誰カ
ルヲ知ラズ、此ハ如クスル者數ナリシトイフ。

櫻所子曰ク、富商大估ニシテ、詩酒談笑ヲ好ム、孝兵衛ノ如

キ者ハ則今之レアリ。其自ラ奉ズル儉朴ナル。孝兵衛ノ如
キ者亦間之レアリ。而シテ豫ノ世變アルヲ知リ。一身ノ計
ヲ為シ。若干ノ窮民ヲシテ産業ヲ得ヒシノ。又以テ國家ノ
為メニ一利ヲ起スガ如キハ。商估中見ル能ハザル者タリ。
況ヤ窮乏ヲ憫卹スル。飢渴ノ飲食ニ於ケルガ如キ。慷慨國
ヲ憂ヒ。有志。資給スル如キニ於テコヤ。産ヲ興シ業ヲ殖
スルニ汲々タル者。今日其人ニ乏シキニ非ルベシト雖凡
豪商大估中。果シテ孝兵衛其人ノ。象備ヲ兼テ備フルガ如
キ者一リヤ。蓋シコレヲラン。未タマヲ見サルナリ。

第三十一 川北梅山儉素自ラ守ル事

梅山ハ伊勢ノ人ナリ。夙ヨクオ學文章ヲ以テ。拙堂ノ門ニ
名アリ。其學ニ在リ數年。風長月夕。輒來レバ則今友ヲ呼ビ。

園藤ヲ摘ミ。俾テ煮ノ同ク斟ミ。議論ヲ上下ス。後テ津藩

ノ教官トナル。維新ノ始メ。徵サレテ史官ニ任ズ。其故舊之
ヲ聞キ以爲ノ。必ズヤ石樓鐵柱。婢妾前ニ滿テ。賓客沓至シ
テ門市ヲ成シ。復々清儉ノ舊梅山ニ非ルベシト。而シテ一
日其家ヲ過ケレバ。則チ門庭蕭然トシテ。人跡ヲ絶ス。梅山
剥啄ノ聲ヲ聞キ。驚喜出テ迎ヒ。手ヲ把テ堂ニ上。ホル。藺席
爲。揭圖書山積ス。茫然タル儒士ノ居ナリ。其酒ヲ呷ズ。小鮮
半盂。蔬菊滿盤。供給淡如ナリ。乃チ曰ク。吾毎ネニ退食賓客
ヲ謝シ。儉素自ラ養フ。蓋シ舊ヲ忘レサルノミ。是ヲ以テ俸
餘積ム所。亦以テ殘年ヲ養フニ足ルト。是ニ於テ其前日想
像。梅山ヲ視ルノ淺キヲ悔ナリシト。梅山唯家ヲ治ムル
儉素ノミナラス。公ニ奉ズル亦然リ。其太政官ニ在リ。官

中ノ會計ヲ總バルヤ、冗費ヲ省フキ用度ヲ節シ、肉頭木屑ト雖、亦徒ラニ用キズ、同僚其能ク職任ニ勝ユルヲ稱セリトイフ。明治十年、春、朝廷經費ヲ節シ、官員ヲ減ズ、梅山與カレリ、乃チ入ニ謂テ曰ク、吾老テ勤メニ倦ム、今日、綬ヲ解ク、實ニ優恩タリ、宜ク文酒風流ヲ以テ斯生ヲ終フベシト、其園中、書樓ヲ名ケテ夢清トイフ、蓋シ姚武功カ、休官夢正清、句ニ取ルナリ。

櫻所子曰ク、王政維新タニシテ、封建ヲ廢シテ郡縣トシ、武家ノ常職ヲ褫ギ、賦兵ノ法ヲ定メラレシヨリ、恆産無キノ士族所在ニ之レアリ、其官途ニ奔競シ、門ヲ掃ヒ塵ヲ拜スルモノ、千百輩ナラス、既ニ其攀援シ得ルニ至テハ、衣服居宅ヲ華美ニシ、聲色耳目ヲ悅バシメ、奢侈至ラザル無ク、

一朝之ヲ失ベバ、忍テ凍餓ヲ受ケルニ術無ク、嗚呼、尾ヲ搖カシテ隣ミヲ乞フ者アリ、悲憤慷慨、急カニ賈生ノ口吻ヲ學フアリ、亦醜ナラストセズ、而シテ纓ヲ濯ヒ冠ヲ撰ケテ後チ、悠游自適、風月ヲ嘲罵シ、山水ニ吟嘯スル、梅山其人ノ如キ者、果シテ幾人カアリシヤ、思フニ、梅山ガ此ノ如クナルヲ得ル者ハ、是レ乎、素儉朴、自ラ守ルノ致ス所ニシテ、且タノ故ヲ以テ踏襲シ得ベキニ非ルナリ、梅山ガ養フ所ノモノ、亦貴バベキ所アリ、重ンスベキ所アリ、トウマス、ペイン氏曰ク、人ノ生涯ヲ送ル、恰モ數千里外ニ旅行スルガ如シ、衣食其他、渾テ行旅中能ク耐工得ベキヲ以テ度トス、富ヲ得レバ、忍チ驕リ、貧ニ至レバ、號哭スル者、必竟生涯三萬六千日ノ行旅中、此ノ如クニシテ能ク堪工得ヘキヤ

否、ヤ、豫、ハ、計、ラ、ザ、ル、ニ、ヨ、ル、ト、梅山能ク此理ヲ知ル者ト
謂、ハ、シ、今、日、官、途、ニ、在、ル、人、果、シ、テ、官、ヲ、休、メ、テ、清、夢、ヲ、結
ブ、梅山ノ如クナルヲ期スルヤ否ヤ、我カ知ル所ニ非ズ。

第二十二 木村成壽居ヲ移ス事

木村成壽ハ、茂城縣治ノ南六里竹原邑ノ人ニシテ、邑ノ著
姓タリ、頗ル學問ヲ好ミ、汎ク書史ニ通ズ。明治某年居ヲ其
宅ノ東ニ移ス、其地爽塏ニシテ、陽ニ面シ、下モニ水田數十
頃アリ、長林之ヲ遠クル土膏地沃、景致幽邃、真、騷、人、隱、士
ノ愛玩シテ忘ル、能ハサル所ナリ、人アリ成壽ニ謂テ曰
久、子固ヨリ林泉ニ嚮敬スルノ士ニ非ズ、且ツ其故宅ハ、穹
檐大宇、閨闈、欄、ニ在リ、何爲レゾ之ヲ去リ、而シテ別ニ新
居ヲ營ムヤ、成壽曰ク、僕カ家世田八十石アリ、稼穡ノ利期

ス、ト、ト、カ、本、邑、ハ、地、曠、蕪、往、來、ハ、險、道、ト、僕、レ、ヲ、以、テ、風、俗
情、賦、之、ニ、加、フル、故、辭、アリ、絲、竹、喧、譁、ス、僕、此、間、ニ、居、ル、使
役、ス、ル、所、ノ、僮、婢、皆、淫、靡、ニ、習、シ、耽、テ、夕、ヲ、南、畝、ニ、竭、サ、ス、故
ニ、居、ヲ、此、ニ、遷、シ、躬、親、カ、ラ、耕、鋤、シ、僮、僕、ヲ、淬、厲、シ、彼、ヲ、シ、テ
紛、華、ヲ、慕、ハ、シ、メ、レ、バ、則、チ、猗、頓、ノ、富、致、ス、可、カ、ラ、ズ、ト、雖
臣、倉、穀、ハ、盈、或、ハ、期、ス、ベ、キ、ナ、リ、ト、成、壽、ノ、父、信、義、潛、德、ア、リ、
行、義、ヲ、以、テ、鄉、里、ヲ、服、ス、性、施、與、ヲ、好、ミ、粟、ヲ、鄉、閭、單、寡、ナ、ル
者、ニ、貸、シ、テ、其、恩、ヲ、録、セ、ズ、尤、モ、貧、ニ、シ、テ、償、フ、能、ハ、ザ、ル、者
ハ、亦、之、ヲ、責、メ、ズ、邑、人、之、ヲ、仰、グ、テ、父、母、ノ、如、ク、ス、是、ヲ、以、テ
家、贖、財、無、ク、時、ニ、或、ハ、之、ヲ、人、ニ、乞、貸、ス、ル、ニ、至、ル、足、嘗、テ、門
ヲ、出、テ、ズ、暇、ヲ、レ、バ、則、チ、兀、坐、書、ヲ、讀、ミ、以、テ、樂、ミ、ト、爲、ス、其
祖、信、成、亦、財、ヲ、惜、マ、ズ、以、テ、鄉、人、ノ、急、ヲ、濟、ヘ、リ、ト、世、人、成、壽

力勸。勸彼が如クナルヲ見。相告ゲテ曰ク。其父祖ハ畜フル
所徳ニ在テ財ニ在ラズ。成壽果シテ素封ヲ致ス。所謂陰徳
アル者。子孫必ス興ル者。是ナリ。而シテ諺ニ云フ。其父苦辛
シ。其子逸樂シ。其孫乞食ストハ。富ノ恃ム可カラサルヲ言
ス。成壽ハ如ク能ク富ヲ致シ。而シテ其家風ヲ墮ス。無シ。是
則チ君子富ムテ其徳ヲ行フ者。其富長ク保ツ可キ也ト。
櫻所子曰ク。歐人ノ諺ニ謂ヘル。丁アリ曰ク。自由ハ彌途ノ
森林ヨリ出ツト。凡ソ人ノ志操氣力也者ハ。富貴利達ニ由
テ消シ。窮乏艱難ニ由テ長ス。故ニ田舎ニ在リ。有爲ノ志ヲ
抱ケル壯士モ。多年都府ニ住スレバ。平素ノ氣力自ラ消耗
シテ。優柔使倭ノ風ニ化スル者ナリ。斯弊ヤ上智ト下愚ト
ヲ除クノ外ハ。決シテ免ガレバカラザル者トス。試ミニ山

陽頼翁ガ前兵兒後兵兒ノ二詩ヲ廻較セヨ。其情狀一目シ
テ瞭然タラン。其前兵兒ハ勝間ノ狄水ヲ撫シ。人ノ頭ニ
加ヘントスルノ意氣ヲ有シ。其後兵兒。即チ都門ニ留寓セ
ル薩兵兒ハ。馬ヲ以テ妾ニ換テ。脾肉ヲ生セルニ非スヤ。故
ニ麗衣鮮食。名妓艶妾ハ。氣力ヲ斬伐スルノ利斧ニシテ。慈
衣粗食。山林田野ハ。氣力ヲ培養スルノ肥糞ナリ。況ヤ繁盛
ノ都府。關熟ノ世界ハ。車馬絡繹。黃塵天ニ漲リ。利名ニ奔競
シテ。其思想ヲ鍛鍊スルニ暇マ無シ。田舎ハ閑靜ニシテ。總
テ書ヲ讀ミ理ヲ思ヒ。術業ヲ修ムルニ宜シ。亦其鮮麗華美
艶羨スベキ者ヲ見ザルヲ以テ。自ラ勢利ニ奔競スルノ念
少シ。視ヨ古來都會ニハ。人材ノ生ズルヲ希ニシテ。英俊ノ
士。多ク僻土ニ出ルヲ之ヲ以テ田舎ヲ出テ。都府ニ來

住スル者、概ネ其黃塵ニ深ミ、人海ニ漂フノ久シキニ至レバ、自然ニ優柔浮薄ニ化シ、所謂江南ノ橘、江北ニ移セハ枳穀ニ化スルノ類ナリ。是衣食住居ノ華奢ナルニ至テハ、都會周ヨリ田舎ニ勝サルト雖、學術技藝ヲ鍛鍊スルハ、田舎ニ若カザル所以ナリ。世ノ有爲ノ志ヲ抱クノ士ニシテ、都會ノ浮華ヲ慕ヒ、貴重ノ氣力ヲ消費セバ、又一便佞狡猾ノ市僧トナランノミ、其便佞ノ市僧タランヨリハ、寧ロ朴直ノ僧父タラン。晉ノ陶潛、松菊ヲ慕ヒ、猿鶴ニ屬スルヲ思フ。我ハ氣力ノ消耗ヲ懼ル、ナリ、殊ニ惟ム、以年書生、學術未ダ熟セズ、師友猶ホ乏シキニ非ルモ、徒ニ都會ノ浮華ヲ慕フカ爲メニ、負笈擔簞、鄉關ヲ離レテ都門ニ來リ、其銳意ナルハ、萬里海ニ航シ、英京佛都ニ智學スルモノアルニ至ル

而シテ始メ來ルマ、繁華鬧熱ヲ掛テ心悸シ目眩スルガ如ク、而シテ月日ヲ經ルニ隨テ、知ラズ識ラス、浮華ノ習風ニ染ミ、研學ノ資ヒ遠ニ聲色ノ爲ニ蕩盡シテ、良師益友ヲ求ムルノ力無ク、業ハ半途ニシテ廢棄シ、亦鄉里ニ歸ルノ面目無ク、都門ニ留ランニスルモ、桂玉ニ窘ムヲ奈何トモシテ、生ノ志擲ハ之ガ爲ニ屈撓シ、餬口ノ計ヲ得ルヲ以テ、微官ヲ甘ムジテ簿領ニ齷齪シ、或ハ斯ニ奔走ニ衣食シ、人生研學ノ好期ヲ空過スル者、多カラズトセズ。此ノ如キハ則チ紛華ノ術業老熟ノ士ガ、名ヲ成シ身ヲ立ルノ地ト云フハキモ、決シテ少年書生カ業ヲ成スニ適スルノ地ニ非ス。豈啻ニ

日本書紀卷之八十一
三十一
僮婢ヲシテ、カヲ南畝ニ盡サシムルノ妨害タルノミナラ
ンヤ。成壽其富ヲ保ツノ用意深切ナリト謂ツベシ。望ムラ
クハ後進ノ士、徒ニ都門ノ繁華ヲ慕ヒ、淫靡情慾ノ風、諛佞
狡獪ノ俗ニ感染セラレ、成壽ノ爲メニ笑ハル。丁勿レ。

日本書紀編卷一終